婦人新報

第三百二十四號

我らの目標

世界の
平和・純潔・禁酒

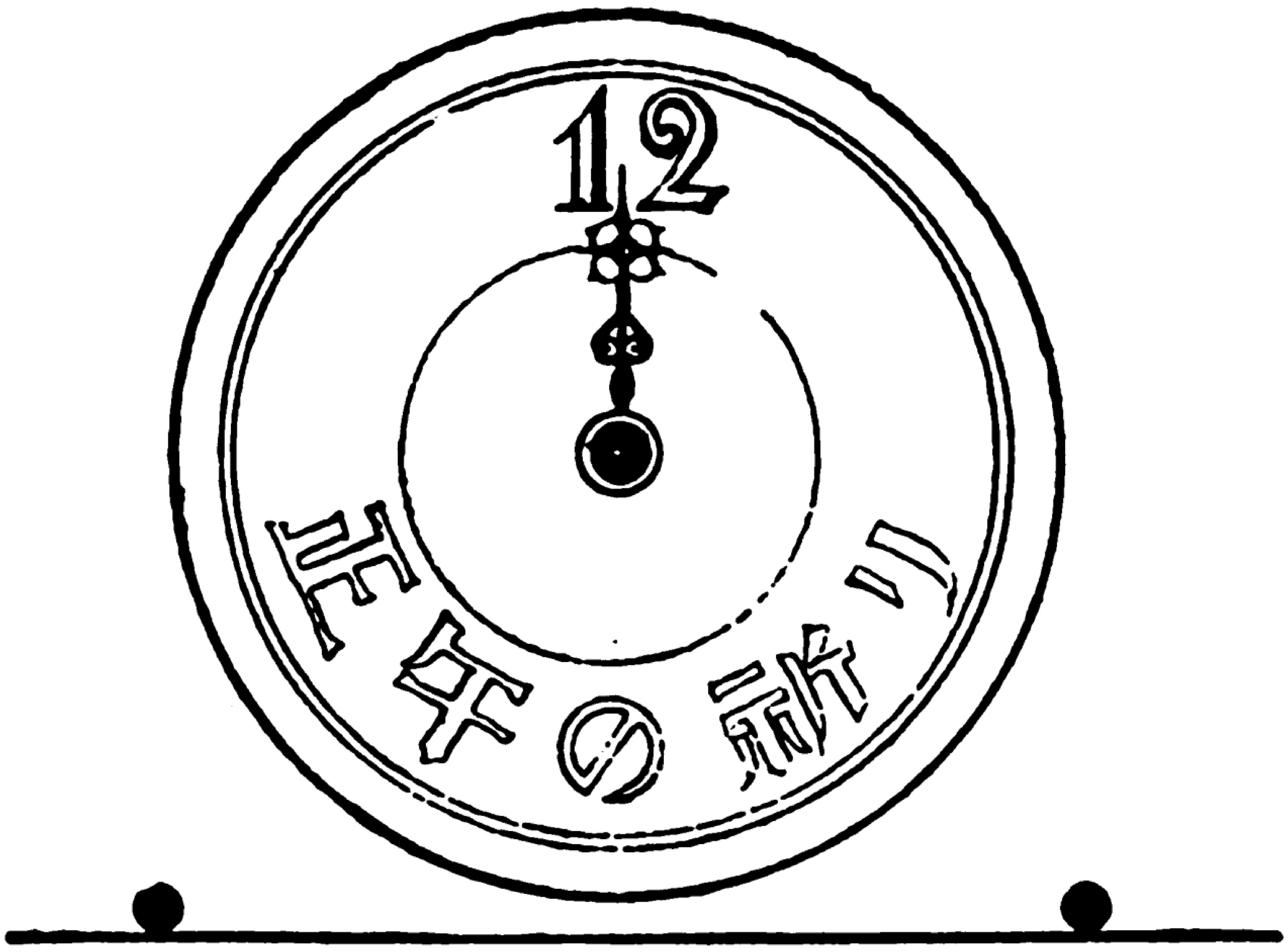
新年特輯號

基督教婦人矯風會

第三百二十四號目次

FUJIN SHIMPO

No. 324. **CONTENTS** January. 1925



はてしない太洋のむかうから
曉の光をもたらして
輝く太陽がにこやかにさしのぼる時、
大陸の國々はつぎ〳〵に
活動の眞晝へといそぐ。
大地はめぐる、
さうして人類の世界に、
眞晝が近づく、海から山へ。
私達の捧ぐる正午の祈りは
海べから山村へ、都から都へ、
はてしなく、私達の心をつなぐ。

日米問題は解決せしか

久布白落實

一

我國の上下、擧つて、國家の大問題とした、日米の問題は、七月一日と共にすつかり片付いて仕舞つたのでせうか、大統領選擧もすみ、ヒユーズ氏留任と定まつて、一先づ海の彼方の形勢は一段落付いたやうですが、却々、肝腎の問題は、どう解決がつくのでせう、このまゝで、國家も國民も安心して居るのでせうか、あれ丈け國家の重大問題として、騒ぎ立てたのは、唯一時のお祭りであつたのでせうか、私は靜かにこの事を考へる時、實に空恐ろしく思はれます、默して居て終に大破裂を見ると云ふ事は兩國民の何れに取つても非常な不幸です、解決の道は何處に在るのでせう。

二

最近歸朝せられた、ボールス氏御夫婦は、彼地に於ける情報を齎らして、排日案通過後、米國中の今日まで無關心であつた大多數の人々は、非常に醒め來つて、通過前とは全く異つた態度で、新らたにこの問題に耳を傾け且つ日米間の事を苦慮し今日の十語は、通過前の百語に値すると云つて居られます、又種々の方面に於ける心ある米國人士は、其解決に眞面目に働き始めて居ます、然し私共は、唯それらに一任して此問題に對し、全く無關心の態度で、今後の我等の問題が解決し得られるのでせうか、年頭に當つて更にこの感を深くするまゝに、僭越を省みず、更にこの事を筆にするわけです。

三

問題の解決法については、種々議論が有りましたが、結局在米同胞の上に、歐米諸國の移民と同等の取扱を與へよと云ふに過ぎませぬ、換言すればかの入國許可の比率に於て、又

市民權獲得の方法に於て、白晳人種と同じ待遇を要求する譯です、この二つの問題が、解決せられぬ限りは、幾多の親日行爲も何等效果なき譯です、七月一日以來、又其前後に於て私共の耳に入つた、諸方よりの聲に徴しても此の事は益々明かになります。

■

私は日米の問題が、漸く世人の耳目に、大問題として頻りに取扱はるゝに至つた時、最も聞き度いと思つて居たのは、太平洋沿岸及び現在米土に在る日本人の代表的聲でした、殊に其内でも、我が同胞の指導者たる地位にある基督敎諸敎會の一致せる聲でした、然るに其事は、豫期通りに實現せられて、大正拾三年七月一日の日附で、彼地に於ける、百數十個の敎會より成る、三團體卽ち、北加基督敎會同盟、南加基督敎傳道團及び西北三州基督敎協議會の代表者が一堂に會し、六月廿八日より七月一日午後五時に亙りて熟議を凝らし決議せし結果を送り越されました、其決議は左の通りです。

決議　第一

在米同胞の使命は、各民族共榮、共存を完うせんが爲め、人種的僻見を打破し、四海兄弟主義の眞理に基き、世界の平和に貢獻するにありと信ず。

決議　第二

一、日本政府が、國際的公義と平和の趣旨に基き人種平等の精神を世界に貫徹せんが爲め、努力せられつゝあることを、感謝すると共に、更に益々此主義に於て、奮鬪せられんことを希望す。

二、日米條約を改訂し、在米同胞に對し、在米歐洲諸國人と同等の權利を附與せらるゝやう努力せられんことを望む、

三、國籍離脱に關し、年齡の制限の撤廢せらる可く、其方法を講ぜられんことを望む、

四、在米同胞の日本往復に當り、煩瑣なる手續を、省略せられんことを望む、

決議　第三

第二世をして、其使命を自覺せしめ、キリスト敎主義に基き善良なる米國市民たらしむるを以つて、敎育指導の方針とす、

以上の決議を爲し、四日に亙る協議會を終り、此れを機として、沿岸に於ける、基督敎各派の合同と、共同の大傳道を爲す決議及び、沿岸基督敎會聯盟の組織をさへ見るに至つたとの通知に接しました。

五

此の決議案及び報告書を送られて、私は云ふ可らざる感謝に充ちます、其理由の二三を擧げて見ませう、

第一は、この決議の第一項です、如何なる民族でも、其理想なき時は死です、沿岸に集りし人々の大多數は、固より金銀を追ふて彼地に渡つた人に違ひ有りませぬ、然し一度其處に永住の覺悟を定むる時には、金銀は其心を滿たしませぬ、民族として、何の使命を有するかと云ふ事は、心ある凡べての人々の胸中を往來する問題です、少くとも一度彼地に住み、半永住の生活でもしたものは其味をかみしめて居ます、この決議の第一は今日まで斷片的には稱へられましたが、此處に代表的團體の一致せる聲として、沿岸日本民族の使命として、「同胞の使命は……人種的僻見を打破し、世界の平和に貢獻するに有りと信じ」とかく明確に力說されたのは、私には初耳です、私は、遙かにこの聲を聞いて、在米同胞の精神的生命の發露として歡喜の情禁ずる能はざるものがあります。

六

第二は、決議二の第二項です、「日米條約を改訂し、在米歐洲諸國人と同等の權利云々」の決議です、此れは、正しく斯く有る可きことゝ思ひます、此の事實上の立場なくば、千萬の親日言論も何等の效果を齎しませぬ、私共は、憤りを含んで默して居ると云ふ態度も、又足の塵を拂つて去ると云ふ處置も目下の在米日本人として又、我々故國に在る日本人として、執る可き正當な道と思はれませぬ、どうしても、こゝに隱忍自重しつゝ主張す可きを、主張し、平和の内に、要求を要求し、何處々々までも素志貫徹を期さねばなりませぬ、其方法としては我等民族の、能率に於ても、道德に於ても、精神に於ても、更らに奮勵して、彼等白皙人士を凌駕する決心を以つて進むも一法です、又絶えず兩者の融和をはかり、相互の了解を增すことも一法でせう、然し、內外相應じ、國民擧つて目標を一にして其要求を、彼等米國人士の面前に明瞭にし、絶えず之を其要求として、其前より放すことなく、拾

度彼等の排斥の運動の如く、廿年でも卅年でも持ち續くる事は更に必要な事と思ひます、我國は、對外と云ふ時は、すぐ戰爭と來る筈のやうに考へ易く見えますが、今後國際聯盟も成り、平和の交渉が最後の勝を占むる世界に進まんとする時に、對外問題に對する、國民的訓練として、此等は、最も善き材料を、我等に提供するものではありますまいか。

七

次ぎは、決議第三の、在米同胞の後繼者たる、若き男女に關する教育方針ですが、之れは、今日まで彼地に於て、半永久若しくは浮き腰の移住者の最も迷ふた問題でした、日本臣民として教育するか、將た、米國市民として教育するか、然し、先きの父母が求むる市民權獲得の聲が、確實となると共に、この問題が、如上の如き確實なる方針として現れ來る事は、當然の道程又喜ぶ可き現象と申さねばなりませぬ、青年男女の教育の方針の一定せぬ事は、是程青年にとつて憂ふ可き事は有りませぬ、ことに海外に有つて種々の故障と戰ひつつ其進路を開拓せねばならぬ青年にとつて、其大方針の不定は、其生涯を誤るものでして、今日基督教諸團體が、率先して、斯く明らかに、この大方針を指示した事は、今後其進退に迷ふ幾多の人々に、一つの有力なる羅針盤である事は疑ひを容れませぬ。

八

先年布哇の奥村多喜衛氏は、在布哇の同胞について、右同樣の事を自身、數年に亘つて、全島に教化運動を爲しつゝありとの報告を齎らして歸朝し、朝野の人々に之を告げて、其了解後援を求められたやうですが、かくして我が民族が數百年來始めて他の民族間に伍して、民族的競爭に於て、落伍することなく、世界的發展を遂げ得る確證の舉ぐる事は、單に我國今後の爲めのみならず、率ひて有色人種凡べての上に、其影響を及ぼす事と信じます。

私は日米問題は、實に我民族の前に置かれたる一大試金石であると信じますから、如何にもして我民族が、之れに對して其措置を誤ること勿らむ事を祈り廣く江湖の教へをこひ度いと年頭革めて執筆せし次第であります。

大正拾三年十二月一日稿

日本婦人参政權協會の一ヶ年

N. O. K.

一

私の愛唱する句に、經レ寒經レ暑、其苦不レ避、經レ饑經レ病其業不レ革の一節が有ります、私は事が思はしく運ばぬ時、障害が續發する時、何時もこの句を口誦んで自ら慰めます、参政權協會が、種々の事業の間に挾まれて、其發達が遲々として居る昨年の一二月頃、あの震火災のあと、なほ燒埃をおびつゝ、何よりも先づ啓蒙に力を入れやうと、始めて婦人参政權叢書の第一を纒め、ついで、佛國参政權協會の形によりて入會申込證を印刷し、最初の一千名を得んとして、十人一組の申込書百冊を造り、此れを四月の大會に携へ行き、こゝで全國より集り來られし支部長及び代員諸姉に、一々口づから說明して之を手渡ししました、目下私の手許には、早や一部も殘つて居ませぬ、私は十二月中に、この人名を取り集むる方針を執つて居ます。

二

四月に大部分を散らし、七月までに東京市內にまき、八月一ぱい、北海道、東北に遊んで、訪問せし十六都市に之を配ち、更らに十一月九州を訪ひて、途次歷訪せし八九の都市に折を得る每に之を語りつゞけて、今日に至りました。

最近更らに叢書第二を刷り、之を會友に分ち、又始めて直接運動に着手し、十一月十三日に於ける、大隈會館の参政權運動懇談會を開催するに至りました。

三

日本婦人参政權協會は、萬國本部との聯絡を取つて居ます、然し內國に於ては、今尙ほ、婦人矯風會法律部の所屬として、其生れ出でし母體より離れずして今日に至つて居ります、然しこの會の性質上、これは母體より獨立して、其生存

を明かにすべきものです、而して其時は日一日と近きつゝ有ります、大隈侯會館に於ける集會は、幸ひにして近縣及び市內の婦人問題に對し理解あり、又働きある大多數の婦人の集合を見ました、而して其結果として、こゝに一つの新らしき聯合委員會を設け、目的の範圍を制限して、唯純粹に參政權及び公民權獲得の爲めに一致團結して立つの一團に編み出すまでに運びました。

■

新團體は、既成團體には一切觸れませぬ、日本婦人參政權協會は、當然其發達を繼續してゆきます、然し運動としては私共は、各自個人として、この新らしき一團と一つになり、少くとも來る議會卽ち五十議會に對しては、團結して一致の運動を取り女性の名のもとに行動を共にし度いと思ひます。私は婦人の政治的責任觀が、都市のみならず、全國的に目醒めつゝある事を、力強く感じます、而して、これに對して、一つの團結せる運動の開始せられむとする事を衷心より歡ぶものです。願くば我等日本婦人が、二千五百年來捉へられし因習の縛を脫して、新らしき日本の建設の爲めに、家庭に於ける如く、市町村に又、國家に對して、女性としての責務を感じ結束して立つ日の更らに一日も速やかならむ事を衷心より冀ふものです。

英國婦人と參政權獲得並に對議會運動の跡

ガントレット　恒子

何事でも良きもの貴きものは一朝一夕に得らるものではない事は私共の熟知して居る處で、其內でも權利を得るほど困難なものはありますまい、小さい子供の遊戲の中にさへ、其がはつきりと現れて居るではありませんか。

今日我々が選擧權を眞面目に得樣と努力しつゝある矢先に他の國の婦人の苦心の跡を熟視して參考とする事も適當な事と考へて左に議會に對しの運動丈を簡單に考へて見ませう。

□

一、一八三二年、選擧改正法案が通過して、婦人は全然其權利が認められなくなつた。

一、一八五〇年、ブロアム卿法案の通過に由つて、特に婦人を除くの意を明記されぬ限りは男性を指す、字句を婦人にも適應する事になつた。

一、一八六七年、ジャン・スチュアート・ミルは市民法の中の男子(マン)の字を削除して、之に代ふるに、人(パーソン)を以てするの議を提出したけれども、此修正案は、終に破れた。

一、一八六八年、カールトン・リング事件に對する裁判に於て「參政に關する、法律文中の、マンを國家が市民に與ふる權利に就て云ふ時は、女子を含まず」との解釋をした、(つまり、責任義務は當然婦人も負ふべきだとしても、權利はやらぬと云ふ事になるのではないか)

一、一八六九年以後、婦參問題は盛に論ぜられる樣になり、此等に關する法律案は、幾回となく、議會に提出せられ、論議せられた、年を逐つて云ふと、一八七〇年には二回、七一年、七二年、七三年、七五年、七六年、七七年、七八年七九年、八三年、八四年、八六年、九二年、九七年、一九〇四年、一九〇五年、一九〇八年には又二回、一九一〇年一一年と殆ど年毎に此問題は公衆の前に大なる注意の的となつて論ぜられた。

幾つかの決議案が提出せられたが法律案として提出せられたものは一三で其内七ツまでは第二讀會迄通過した、一八八六年以後は、婦參に賛成の議員が多數を占める樣になつた。

一、一九一〇年に下院に於て、コンシリエーション委員が組織せられ、委員長リットン卿、名譽書記ブレイルスフォード氏を除いては全委員は下院議員であつて、此委員會からコンシリエーション法律案、即ち獨立の生計を營む婦人(約百萬人)に參政權を與へると云ふ法案を提出した、而して提出者は、シャクルトン氏であつたが、一九一〇年七月十三日に百十名の多數で、第二讀會を通過したけれども、議會が十一月に解散されたので、法律とならずに仕舞つた。

翌年新しい議會へ、サー・ジョルジ・ケンプが殆ど同一の法律案を提出し一九一一年五月五日に第二讀會を、一六七の多數で通過した。

國內に於ける會の發達

婦人が參政權を要求する唯一の目的を以て組織せられた會の最初のものは、一八六七年にマンチエスター市、ロンドン市、エジンバラ市等に起つたもので、其翌年一八六八年には、

ブリストル、バーミングハムの兩市にも出來た。

此等五ヶの會が聯盟して、英國聯合婦人參政權協會なるものを組織したが、之が驚くべき發達を遂げて、一九〇九年一月には、加盟した團體が七十となり、一九一〇年十月には三百〇五團體の聯合となり、殆ど毎週新しい會が組織せられたと云はれた程であつた。

此聯合團體は、參政權獲得後も尚、別名の許に、團結して一大勢力を作り、其動きを繼續して、特に議員選擧運動に力を盡しつゝある。

運動資金

聯合婦人參政權協會丈で、演說會、請願運動、其他あらゆる種類なる宣傳や運動に必要なる資金として集めた額は、かなり多額であつて、一九一〇年度のみでも、四萬圓以上にのぼつた、其他の社會事業團體や政事團體で此目的の爲に集めた金は、二十萬圓以上と云はれて居る。

集會、運動

一九〇七年二月には、三千名の婦人が、ロンドン市中を、ハイドパークから、エクセタホールまで、行列し、同年十月には一萬五千の婦人がエジンバラ市を練り歩き、同年同月に二千の婦人がマンチエスター市を行列して示威運動を試みた。

一九〇八年六月には、一萬五千の婦人がロンドン市內を、行列してアルバートホールに集つた。

一九一一年六月には四萬の婦人から成つた、四哩に亙る長い大行列が、アルバートホール指して練り歩いた。

一九一一年中各團體が催した公會の數は、數へる事さへ困難だと云はれるが、其內の重なるものを擧げれば、大集會は五千回位で、ハイドパークに於ける集會には五十萬以上集り、トラファルガスクエーアのそれには一萬人以上參列したと云はれて居る。

大公會堂アルバートホールで開かれた六回の集會の內、二回は一週間の內に續いて開かれたと云ふ事實は如何に其運動が白熱化して居つたかを示して餘りあるではあるまいか。

ロンドン市の他、マンチエスター、エジンバラ、ブリストル、ニウカソル、ギルドフオード市其他にも同樣な運動があつた、路傍演說や戶外集會を加へたら、算へきれぬほどの集會を開いて働いた英國婦人の意氣は、何事かを確に我々に敎へ、一九一〇年の夏から秋にかけては殆一週に二百から三百回までの集會を開いたと云ふに至つては、其熱心の度と其運動の激しさを物語るに充分であると思ひます。

歷史も異り、國情も習慣人情も相異の多い英國や米國の有樣を見て、直に其通りの事を此國にも實現させやうと云ふ愚は勿論避けべきであるが、其苦鬪の跡を眺めて、私共は確に何事か得る處があると信ずるのであります。

國家と市町村と婦人参政と

いよ〱今議會には普通選擧權も承認さるゝらしく見受けられますが、然し、婦人参政權の承認は未だ取り殘されたまゝに終るらしく存ぜられます。けれ共、婦人自身の要求は旣に定つてゐると存じます。最近に於ては、婦人参政權獲得といふ唯一つの共通の目的を貫徹するために、一般婦人の大同團結を見るやうになるらしい形勢であります。それで、本誌新年號のため、左の二問のお答えを諸方面の指導的地位に在らるゝ方々に願ひました。幸ひ、四十八名の方々にお願ひした中から左のお方々の御返事を頂きましたから、左にＡＢＣ順で記しました。

大勢が旣にどの方向に向つて進んで行きつゝあるかは、これによつて充分知つて頂くことが出來ませう。

（大正十三年十二月五日）

――お尋ねの件――

一、婦人参政權の承認

二、市町村に於ける婦人公民權の承認

右は二件ともに可、否、何れも理由を伺ひました。

日本女子大學校長　麻生正藏

一、可。

理由、男女協力の政治によりて、より完全なる結果を招來することが出來る。

二、可。

理由、男女協力の自治によりて　より完全なる結果を招來することが出來る。

早大敎授 廓清會理事　安部磯雄

一、可。

理由は別に述べる必要はありません。これが判らない人は餘程頭の頑固な人ですから、救濟の途はないと思ひます。

二、可。

代議士　星島二郎

一、可。

二、可。

平塚　明

一、可。

理由、繰返し言ふまでもなし。

二、可。

理由、繰返し言ふまでもなし。

長谷川　如是閑

一、可。

理由、國家に對し男子と同じ利害關係に立つてゐるから、

其他。

二、可。

理由、自治體に對し男子と同じ利害關係に立つてゐるから

其他。

市　川　房　枝

一、可。

理由、申上るに及ばないほど當然の事でせう。

二、可。

理由、申上るに及ばないほど當然の事でせう。

城　の　ぶ

一、可。

二、可。

早大教授　北　澤　新　次　郎

一、可。

理由、婦人は本質上あらゆる點に於て男子に劣る處がないからである。

二、可。

理由、同上。

法學士　片　山　哲

一、可。

理由、人類解放、階級撤廢へ進むために。

二、可。

理由、自治體の性質からいつても、與へるのが當然である。否認する理由は一つもない。

三　宅　や　す　子

一、可。

二、可。

理由、いづれも否むべき理由がありません、當然與へらるべきものです。

守屋東

一、可。

理由、婦人參政權といふから面倒ですが、皆此國をつくつて居る人です。當然の事でせう、

二、可。

理由、とくに此方だけでも早く承認しないと、我國は一刻一刻危險の淵に陷りませう。

西川文子

一、可。

理由、もう男女を差別しなければならぬ時代ではありません。

二、可。

理由、家庭を司る關係から婦人の方が直接影響する事が多いから、此の方が參政權より先きに必要です。

新妻伊都子

一、可。

理由、社會を構成する半分の義務と責任をもつが故に。

二、可。

理由、前のと同じ。

奥むめお

一、可。

理由、これまで女が政治に參與してゐなかつた事のためにどれ位、各方面に、社會が損をして來てゐるかは、多言を要しないでありませう。

二、可。

理由、自治體では、むしろ男子よりは婦人の頭と手で切り盛りしてゆかねばならぬ。日常の生活に卽した仕事が非常に多い筈です。

法學士　蠟山政道

一、可。

理由、婦人の人格並びに生活の向上と社會的訓練の爲めに。

二、可。

理由、同斷、特に共同的消費生活の進步の爲めに。

一、可。
理由、今更理由を云ふ迄もありません。

坂本真琴

二、可。
理由、やがて國に純正なる普選の施行を見るべき一つの階梯として、及婦人自らの自治的訓練のために。

法學博士　末弘嚴太郎

一、可。
理由、今更言ふまでもなし。

二、可。
理由、今更言ふまでもなし。

代議士　高木正年

一、可。
理由、政治の立脚は家庭から、この意味に於て當然要求すべきものと思ひます。

二、可。
理由、市町村は家庭の自發的奮起によつて自治の徹底を致すべきものなれば、この趣旨から與へらるべきものと思ひます。

前代議士　田川大吉郎

一、可。
理由、當り前の事。

二、可。
理由、當り前の事。

聯済會理事　高島米峰

一、可。
理由、議會政治は國民の政治である、從つて國民たる女性を除外すべき理由なきが故に。

二、可。
理由、女性を除外して一家の經營不可能なるが如く、女性を除外して市町村の事を處理せむとするは不可能なるが故に……從來女性を除外して市町村の事を處理し得たるが如しと雖も、そこに多くの缺陷ありしを如何ともすること能はざりき。

和田富子

一、可。(目下最必要事たる急務)

理由、餘りに悲慘なる目下の民族的諸問題に對し、諾否を明らかにして國民の進むべき途を正道に就かしめんには、利害關係や情實に捕はるる男子の見解にては不充分にして感情論を離れたる民族の母性たる者の無私なる發言を要す。

二、可。（最も手近き當然なる實行權なり）

理由、政治的訓練を缺く一般婦人をして、地に根を深く張りたる實際的智識と經驗と責任感とを得せしむる爲め。かつ又、自家の臺所、子女教育、都市共同生活の當然の關係及び責任として盡すべき義務なりと信ず。

山川菊榮

一、可。

理由、國民として當然のことですから。

二、可。

理由、上に同じ。

山田わか

一、可。

二、可。

山脇房子

一、可。

二、可。

吉岡彌生

一、可。

理由、婦人も一個の人格者なるを以て。

二、可。

理由、同じく。

故安藤太郎氏を憶ふ

N・O・K

もう廿有餘年の昔となります、あの若き精力充ち〳〵たクララ、パリッシ女史が渡來せられて、婦人禁酒大講演會が美土代町の青年會館で催された事が有りました、其時私は校友數人と會場の一隅に傍聽して居りましたが、安藤禁酒會長は、あの立派なお身體を壇上に運び靜かに而かも徹底したお聲で申されました。

「私共は、さん〴〵いろ〳〵な事をしてから、禁酒したのだが、女史は余くの無垢である、一滴も酒で其身を汚した事は無いのだ、實に羨しい事だ」と如何にも感慨深く申されたのが今に耳に殘つて居ます、實にそうです、飲酒は最近まで罪惡とも不行跡とも考へられなかつたのみか、男子として當然のこと﹅思ひ做され

に來て居た時代に、安藤氏は、布哇在留日本人の爲めに禁酒して、之を率ひ、歸朝後數十年に亘り、一日の如く、禁酒事業、傳道に獻身して立派な最後を遂げら

れました。明治卅年、四十年より最近に至る迄、禁酒の集會に、又運動にいつも大將として現れて居られた安藤氏を、仙臺坂の記念會堂に葬た時，當日の說敎者であり又安藤氏夫妻を神に導かれた方である美山貫一牧師の語れし如く、「義人の如く我死なむ願くは我が死、彼の終りの如く有らま欲し」と云ふ感に打たれました。

禁酒教育運動(五十錢運動)

守屋東

眞劍な働に我等は進んで來た。少年禁酒軍運動の第一運動として、八百萬の小學兒童に、禁酒禁煙の贈物がしたいといふ、其培養された思が、今や芽をふき生長を樂しむときとなつた、全國二萬五千餘校の小學校!!　我等の念願の標になつた、二萬五千、二萬五千、何でも此二萬五千の學校へ一校も殘さず、禁酒禁煙の敎材を贈る!!　我等は寢ても寢付かぬ程其仕事を愛して働いて居る。

印刷物は整ふて來た、各地の學校名は一〳〵と書き上げられてゆく、そして調ふた一切の印刷物が卷かれて筒におさめられて送りだされる迄にか﹅る手數は容易でない、然し其手數を樂しんでやつてゆく我等事務の銘々、

十二月一日から大正十四年二月末日まで我等は夜勤をつゞけなければ此仕事は出來ないと、定まつた、規定まると其間に健康を害さないで而も能率を上げてゆく働き方を見出ださなければならなくなつた。

第一、樂しんでする、責任を感ずる、

一々出來上る喜を感ずる休む時にしつかり休む、必ず外出して

外氣にあたる。

など、各々話してゐる、共に祈つてする處に見えない大きな力を感ずる。

我等とは誰か、臺灣の會員元山さく子姉が、此の仕事に共鳴し同情して其息脱之介氏を應援として送られた、かつてない事である、學生排酒の人々と共に過日の禁酒講習會は二ヶ月を共に働いたが、今また此精兵を加へて禁酒軍は萬々歳である。學生の人々は、學業の餘暇來て助けると約して居る、何といふうれしい事であらう、少年禁酒軍少年少女!! 斯うして發達してゆく。新手として今一人ある石川花子、幼兒教育に熱心な人、年もまだ若い、青山女學院の出身、性質に朝から夜までコツ／＼とニコ／＼働かれる其他姉妹義勇軍として應援に來られる、ほんとに樂しい働である。

今日まで働かれた吉岡、川添の兩姉は十一月を期して其父母の膝下に歸られた二人を失ふた少年禁酒軍は、失ふたのではなく、宮崎と神戸に此二人を送つてそこに新たな軍勢を加へたといふ形にしたい、さうなる事を信ずる。

根本正先生は未成年者飲酒、喫煙禁止法の制定さるゝ爲に其生涯を捧げてといふても過言でないお働きをなさつて下さつたおかげで、今我等は國法に守られて少年少女に禁酒禁煙の話をする事が出來るとは何といふ感謝すべき事であらふ、日本國の國民として、また各地の市民として、此法を守るといふ事は大きな法治國の民としての責任である。

全國小學校に送る、禁酒ポスター、及タバコの話が御入用の方には御分けします、皆様の家庭にはつておゝきになつてもどの位よき好果を與る事かしれない。

また玄關先に張つておく事もよい事と思ふ、願もう！ と案内して一寸待つまにさうしたものが、そこに張つてあれば何の事なしに、見る氣にもなり教育らうける、酒ずきの客にはお氣の毒かもしれないが、それは堪忍して頂く事として、私は今年のクリスマス、年玉には此ポスターを使ふ事にした。

私のこのごろは、全く感謝の日でつゞく此國を酒なき國にする日まで、斯うして働かなければならない。

無聲笑人

記者

幾度か生死の境を通りぬけて、ふしぎにも穩かな氣持ちで、今年の正月を迎えられる矢島先生は、全く御自分でも仰言る通り、裕かな神のみ惠と人のめぐみと祈りの中に活きておゐでになります。

一度は言葉も忘れ舌も廻らぬやうな有様になられたこともありました、けれ共先生の仰言る通り「今は床にあつても病人ではなく、脚は完全に歩けなくとも、耳は遠くとも、視ることも全くはなくともほんとうの不具者ではありません。」

一昨年ひどい病氣をされて、奇蹟のやうに生命をもりかへした先生は、三つ兒のやうな氣持ちになつて居られます。九十二年の人生！　辿るには長い人生でした。その長い〳〵過去をふり返れば、大層大きな出來事や小さな出來事が數限りもなく思ひ出されます。眠りの來ない夜長の折々に、靜かな寢室の空に手をさしのべて、幾度か幾度か書かれる左書きの文字、それは「無聲笑人」といふ四字です。

今はもう數年の昔になりますが、令息林氏が未だ沼津の郊外に御存命であつた頃、ある日「お母さん、これは隨分面白いものでせう」と言つて見せられたのが古い破れ額につゞれ書きにされたこの句でした。沼津のさゝやかな古道具屋の店先きにころがつてゐた一片の古額。それを手にされた矢島先生その顔には、いつか言ひ知れぬおだやかな微笑が浮びました。

「無聲笑人！」先生の雅號を落穗と申します。然し、この「無聲笑人」はよほど先生のお氣に入つたものらしく、「三つ兒の私には心配や心遣ひは無用、まあ、かなしみも無用。顔に喜ばしいことは失はないやうしたいと思ひますから、無聲笑人の心得で、有名無實にならないやうにしたいと思つてゐます。」と仰言います。五十年の昔、先生が洗禮を受けられて間もない頃、十二月のある集會に授洗されたタムソン氏から示された「ローマ書十三章終りの夜すでに更けて日近づけり」の一句をしば〳〵憶出して味つて居られます。病氣をせずして休息を得られた先生の近狀を御紹介します。

海外

婦人平和會議

エス・エム

現在米國では平和協會とか平和聯盟とかいふやうな、平和問題のために出來てゐる會が七十ばかりあるさうです。ところが、今度、米國で有力な六つの婦人團體が、來る一月十八日から廿四日迄ワシントンで聯合主催の平和大會を開くことになり、各團體から百人宛の代員が出席することになつてゐます。各州から洩れなく代表者が出席出來るやうにと骨を折り、既に六ヶ月前から委員の方では幾度か熟議を重ね、色々準備中ださうです。その團體といふのは

The General Federation of Women's Club (婦人クラブ聯盟) The National League of Women Voters (婦人有權者聯盟) The National Young Women's Christian Association (基督教女子青年會) The National Women's Christian Temperance Union (基督教婦人矯風會) The American Association of University Women (女子大學聯盟) The Council of Jewish Women. (ユダヤ婦人會)

この外に二三の有力な婦人團體も加入するらしい形勢で、これらの大きな米國の婦人團體が平和のために大會を開催するといふことは一般輿論の喚起といふ點に大きな力となることが出來ると觀測されます。

大會では、現在國際婦人參政權協會及び米國婦人參政權協會の名譽會頭である、キャリー・チャプマン・キャット女史が議長となり、戰爭の原因及びその防止に就て討議研究するほか、まる一日を費して、現今世界政局に就ての詳細な説明を聽取することになつてゐます。

婦人團體の、平和のための大同團結を見るに至つたことは、大海四千里をへだてた米國のため喜ぶべきことであると同時に、世界婦人のために大いに喜ぶべきことであると見られます。

シユランベルゲ女史の逝去

◇指導者を失つたフランスの婦人參政界

フランスの婦人參政運動の先頭に立つて千九百十二年以來婦人の政治的解放のために働かれたシユランベルゲ女史は終に長逝されたのです。千九百十一年、ストックホルムの大會にフランスの代表者として出席されて以來國際婦人參政權協會の同志の一人となり、千九百十三年のブダペストの大會では同協會の役員の一人となり、越へて千九百廿年ジェネバの大會では協會の第一副會頭となり、又、千九百廿年からローマの大會まで、女史は協會の男女道德問題に關する委員會の委員長であり、その他、國際婦人聯盟の通信部の委員として盡し、更に國際聯盟に興味をもつて、千九百廿一年にジェネバで開かれた國際聯盟の婦人及び子供の賣買に關する協議會にフランスの代表者の一人として出席されました。

フランスの婦人參政聯盟は申すに及ばず、國際婦人參政權協會にとつて、女史の逝去は實に大きな損失と申さればなりません。

時評

「議會前」といふこと

エス・エム

議會前になると「又何か出るな」といふある期待ともつかず好奇ともつかぬ氣持ちになる。近年、所謂婦人參政運動は議會前になると少しく色づく。それは可なり家庭に理解のあるらしく思はれる、さうした働きにたづさはる人々にあつても、何經濟的にか、精神的にか餘裕の充分でないといふこと、及び、日本の婦人に、未だればり強い一貫した精神勞作に從事する丈の素質の足りないことも思はせられる。

けれ共、議會前に因つて云々といふやうなことはどうでもよいとして、婦人參政權の承認は婦人全體の社會意識の目覺めと要求の度の高さによつて早められるものである。少數の人々が全人民を代表する、殊にある特權なき特權階級の少數人が國民を代表する、とさういつたことが眞面目に信じられるものではないと同じ意味で、普通選擧權が第五十議會で認められるとしても、他の半數の女子を度外視してゐる限り、それは普通選擧の實現とは言ひ難い、男子が女子をも代表する、そんなことは到底出來ない相談である。

議會前になつて運動する、それも大にやるべし、兎に角、代議士を通じて議會に物言はなければならない現在では、對議會の運動も重要な部分であるから、私達婦人は協力して働くべきである。婦人自身の權利のために、子供の幸福のために、我等の住む社會國家のためた。

學生劇の禁止について

岡田文相は種々な計畫や主義方針といつたやうなものを樹てたり、變つたお達しを出したりして私達を驚かせる人です。さきには學校劇は罷り相ならぬといふ嚴しいお達しで。禁止された側では、殘念だとか、時代錯誤だとか、理解がないとか言ひながら、文相の命を命として、慎んでどこでもやらなくなりました。この秋のシーズンの樂しい計畫をやむなく中止した學生達はどんなに多いことでせう。

なるほど、お父さんやお母さんの眼からみれば子供のしてゐることには、可なり小言を言ひたいこともありませう。文相の立場から、まづさういふ寛容な氣持ちで見れば見られないこともないのですが、けれ共、學生の情操教育、のんびりした個性の表現、協働の訓練といふやうな點からみれば、むしろ學生劇の流行といふことは喜ぶべき傾向でした。

それに、もと〳〵私達日本人はメイムレス、チユーンレスで、氣持ちのよい踏跡一つ言へない人種です。この意味に於て、岡田文相が學生劇の禁止に出でずして、その健全な指導のもとに全國の若い學生達の生活を明るい自由な活々した方向へ導き、眞の藝術的訓練を以て青年日本の建設に貢獻されたならば、それは軍事教育によらずして既に立派な人間らしい人間をより多く造り出すに有益であると思はれます。

このごろ(臺灣紀行)

守屋東

手紙といふものは恐ろしいものだ、臺北支部の書記堤夫人の手紙は、とう／＼私をむりな中から臺北行をするやうに運命づけてしまつた、初夏六月同姉から支部を代表して、私に渡臺するやうにと申こされたけれど、病後の私はすぐにお斷をしてしまつた。(勿論本部に其事を申たのであつた) 然し九月以來、回復して事務所に出るやうになつて、また新に堤夫人の手紙を手にした時、私は責任上役員に斯う言ふて來てゐますと披露した。其結果、久布白夫人が京都に行かれた時、渡邊常子姉と協定されて、電報で私に交渉があり、とう／＼行く事になつてしまつた。

私は臺灣には行きたくて／＼たまらなかつたのだから一も二もなく行く事をうれしく思ふたが、私には仕事があつた、少年禁酒軍の全國小學校相手の大運動!! 此運動の事を考へると私はゆきたくなかつた、一萬五千枚を前にならべて、何んで臺灣迄講演などに行く暇があらうかとさへ叫んだ、も一つ手近にその時用事があつた、禁酒教育講習會であつた、然し此方は學生排酒同盟の學生諸君が引きうけて留守中やると言はれたので先づよしといふ事になつた、然し何もかも凡て導かれた、私の臺灣行が決定し、留守役の吉岡姉がけなげにあとを背負ふてくださつたので、私は勇ましく出かけた、出掛ける迄仕事した、船の中で原稿をかくやうにと宮川姉からは嚴命された。

十月十日午後七時の東京發で出掛けた、宮、大瀧の兩兄並に會の二三の人々に送られてだつた、車中は只よく寢た、大阪で林副會頭に面談して共に神戸まで行つた、私共二人はそこで娘の件で人にあつたそして林姉は奈良へ午後の演説にまにあふやうに、其人は高松へ、私は臺灣へと宿から三方に別れた、風のない、天氣のいゝ日であつた。備後丸行のランチ

で、背の低い、豊な態度の一紳士が「あなたはどちらへ！」と尋ねられた、私は簡單に臺灣へと答へた「失禮ですがあなたは守屋さんではいらつしやいませんか」と私は「ハイ守屋です」と答へた、名刺を受取つた、臺灣屏東の日基の牧師伊江朝貞氏であつた、話は全く打ちとけて臺灣についての教を受けた、ぜひ屏東まで來るやうに、私が丁度神戸まであなたを迎へに來たといふてもよい！」など〻興がられた、同氏は日基の總會のお歸りがけであつたのであつた。

瀬戸内海の美しさも私には暇がなかつた、室にいつて原稿書をした、門司で投函できなければ間にあはぬものばかりであつた、幸皆終了する事が出來、船は門司に着いた、日曜日である、伊江牧師と共に上陸して下關の日基の教會に出席した、丁度總會の報告說教であつた、日基の盛な傳道力と、其立脚さる〻個人の靈の救といふ事を明に伺ふ事が出來た、教會の柱石富海御夫妻に御面談し晝食は同家で頂いて船にかへつた、富海氏のお宅には必ずよるものときめて居る自分をおもしろくおもつた。

船に清瀬一郎代議士、貴族院議員渡邊錫氏が乗船されてをつた、お二人とも臺灣議會問題に關する辯護の爲に渡臺さるるのであつた、清瀬氏を送られた、林龍太郎氏の夫人に御面語した。

十二日に門司を出帆してからの船は實に好航海であつた、久しぶりによく遊んだ、運動した、毎日船長、事務長、船客とともにデッキでゲームをした、運動は樂しいものである、臺灣行のおかげと感謝々々、

船では少ない乘客にもか〻はらず、安心して航海をして居るやうに見える、私は船長に質問した、此船の客が滿たず、こんなに少ない乘客でやつてゆけますか、船長曰く、臺灣航路の第一客はバナ〻です、私は全く驚いてしまつた、內地に搬用されるバナ〻が斯うまで大きい力があるものかと。船にのつていつも思ふのは、一等船客の優待されて居る事である私は船は必ず一等を選ぶ、理由は入院の心得である、療養院のつもりで乘る、感情的にも病院らしくなく、實によい氣持である、若し凡ての病院少なくも療養院が斯うした設備と侍遇でつかれた病人や、また心になやむ人々を受け入れてくれたら必ず全治するとさへ考へた。備後丸の二等三等の設備は

米國航路などのものよりは遙かに秀れて居る、若し會社と乘客とがもつと心を合せて乘りもし乘せもしたなら實に心地のよい航海となると信ずる、乘るもの丶心得は、人として大切な教育の一つであらう、公德とか共同とか愉快などゝいふものをもつと〳〵學ばなければ、樂しきはづの旅行が、實に醜なものとなる、苦しいものとなる、玄海をすぎて次の日から船長始め船員の服裝が白になつた、一寸旅らしい氣が強く頭に湧いた。

フォーモサ

初めて見たフォーモサ、臺灣の印象は、あさもや靜な、曲折の鈍い基隆の山々であつた、數隻の船は圍につながれてあつた、靜に入港した時は、丁度十五日の朝早く六時すぎであつた、波止場といふものはなつかしみのあるものである、迎へに來て居る人々の顏は知る知らぬを問はず親しげに見える支那服つけて働く本島人はもとより多數の勞働者の群の中に力を感じた、昨今此港外、基隆の沖で珊瑚がとれるといふ事である。

基隆婦人會の〇〇氏御夫婦及大橋牧師のお迎へを受けた、どこでも必ず通らなければならぬ新聞記者諸君の關門を通つて郵船ビルで休憩した、基隆は今雨期といふに此日は朝はれの心地よい日だつた、私は幸福者だといはれた、堤、小谷の兩夫人が臺北からわざ〳〵一番で迎に來著された、この方が堤さんかと私は思つた、手紙一本に眞心こめて私をこゝまで引つぱり寄せてしまつた方、其手紙のうしろには幾人の厚い祈があつたらう、此島を愛し、其土地を清めんために涙なしには祈られなかつたのだらう、一本の手紙も尊い力を有する、私は此時位、此土地の爲に感謝した氣持をもつた事はない、祈の人のある事を—。

臺北

汽車の窓外は皆新らしい眺であつた。水牛のおもしろさ、白鷺の美しさ、カラスが仲善水牛にとまる其樣子、子供ならずもうれしいものである、車中も新聞社の人に捕へられて話をした、一言述べた其事が、幾百千の人に斯うして報導されるのであるかと思ふと、自ら記者其人に敬意を拂はずにをら

れない、大切な任務の人である、臺北には多數の人々が出迎へて下さつた、金平夫人の姿が見えたニコルス夫人、三井夫人また誰々と親切な人々に取り圍かれた、中瀨商工課長も制服で迎へて下さつた、學生時代から同氏を知る自分には十幾年後の斯うした會合に其定まつた服さへつけてをられる事がめづらしくなつかしく思はれた、臺灣でお役人が皆此制服である事が私には一番簡單にも見えまた窮窟にも感じられた。ニコルス夫人の自動車で、道美しい臺北の市を走らせて金平夫人のお宅に着いた。こゝにはもう皆樣が來てをられた。一同で祈會を開いた、赤木夫人司會の下に、私は願つた、どうぞ祈つて私をつかつて下さい、助けて下さい、皆は約された、晝食は速水夫人の手になるおすしを同家に集まつて樂しく食した、こゝに丹下臺灣部會長は就床されて居た、同氏はデング熱におかされて數日前から床にゐられた、殘念がつてをられた然し働くものゝみの中に祈るために床に就かれたやうにさへ見える同氏の病は意義あるものであつた、人々は一層手をわけて働かるゝやうになつた、凡ての事は働きていつも全となる。

金平、井村、ニコルスの三夫人に案内されて、先づ臺灣神社に詣でた、乃木大將母堂のお墓に詣でた、將軍のありし日の御英姿さへ心に浮んだ、人格の印象は決して時を經ても失はるものではない。

臺北の市は丁度ハワイに似て居る、我國統治以來斯の如き美しき潔な町となる迄の爲政者の苦を心に謝した、批評は容易である、實行は困難である、凡ては我等共同の事業であるからには公平にまた涙を以て親もし批評もしまた論議もしてゆかなければならない、己の爲に明をかく事があつては實に子孫の爲に申譯なき事である。

臺北支部の會員は實によく働かれた、全臺灣を背負ふて進まうとされる丹下部會長を初め、臺北支部長の金平夫人より會員の一人々々に至るまで。特に其御良人方が夫人の祈を我が祈とし、其働をまた各御自分の働として助けつ助けられつ共力して進まるゝ美しさは他に例の少ない事であつたと思ふ

臺北での集會は各方面に亘つた、公開演說會、學校、教會日曜學校、病院、路傍演說迄する事になつた、凡ての人の祈によつて開き閉された。女學校は皆行く事が出來た、小學校

は六年生の男女を壽小學校に集めて頂いて話す事が出來た、丁度其數一千二百名、私は少年少女が一番すきだ、何といふても純眞だ、言ふても其氣持か其まゝうつるやうな氣がするほんとに少年少女には尊い美しい未來がある、其未來をよりよきものにして渡さなければならない、禁酒會の三井堤兩氏は熱心に此爲に盡力して下さつた、吉田會長は多忙なお身をさいて此事が出來るやうに盡力して下さつた、何もかも私には感謝するより外ないのである。

臺北は臺灣の中心地である、此地に凡ての機關は皆完備して居る、學校、官衙の建物の秀は申すも更なり、街路樹の美しさ道の清潔、下水の完成、海を渡つて此地に來て初めて町らしきを我國に於て感ずる、震災後の東京に住むものには一層道路といふものに注意がむく。

或る日二時間許りを植物園にすごした時は、私は初めて自分の所有慾に苦しめられた、何の木を見ても花を見ても驚きと喜びとに打たれぬいた、どうして斯うまで感ずるのかと考へても見た、そして解つたのは、此地が我國であつたといふ事であつた、ハワイや其他の地で熱帶植物の繁茂したのを見たときは只立派見事といふだけであつて、今臺灣で斯うして見ると、我ものといふ氣が心のそこからわく、日本の領土に此木がある、此花がさくと思ふと、うれしさに滿ち〳〵た、斯うまで、私は自分が慾ばりであつたとは此時まで知らなかつた、また臺灣には内地で溫室でもり育てるやうに世話して開かす花や、發育させる木が、庭や道に平氣で育つてもゆき花もさけば實も結ばれてゆく、何といふ惠まれた熱さであらう、金平夫人の御良人は此園の部長をして居られる、林學博士である、私は次から次とお尋ねして滿足した。

總督府は見事な建物だ、支部長金平夫人の案内で後藤長官を御訪問した、御赴任早々であつたにもかゝはらず、御面語下さつた來意を述べ、御指導を願ふた、酒、タバコ皆專賣である此地に來て其害を傳へ、人々が使用せぬやう勸める事を專門にする私が、靜に受け入れられて、よき機會を與へらるるといふのも、文明の恩澤と思ふた。

然し私は少年少女が酒を排し煙草を斥ぞけるといふ一點に於て今日まで一度も反對された事がない、如何な親でも子が酒飲になる事は喜ばない、タバコのみになる事も親は感心せ

ぬものと明瞭に解つてゐる、臺北での集會の中一日臺北病院の看護婦方に話した。

臺北病院は臺灣一の大病院、こゝの看護婦服は高木錚子女史の考案によつて改良された簡易清楚なものである、赤十字からも來聽された二百五十餘名の看護婦方に話した、組合教會で開催した婦風會の集りにもまたこの集りにも來會されて居つた一男子の方は、私に路傍演説をするやう申込まれた。委員方のお考にまかせた、婦風會主催の公會は鐵道ホテルで開かれた、盛な會合だつた聽衆は壇の一隅にさへ座すといふ有様、準備された會員方の喜びは思ひやる事が出來る、斯うまでもと思ふ程よく準備された、有難い事であつた。

基隆から吉田病院

十一日には庄野夫人と元山夫人に案内されて基隆の婦人會に出席した、小學校時代の友達にもあつた、なつかしいものである、基隆では丁度各種の催のある日であつたにもかゝはらず多數の來會者があつた、中田夫人が司會された、歸途臺北の街見物をした、本島人の市場も見物した、どこまでも共同的な此民族の一面の長所をよく知る事が出來た、夕暮淡水の流れにそうて歩き、禁酒會長の吉田學士を其病院にお訪問した、同氏の德は廣く全島に及び、一度此先生に診斷して頂けば死んでも悔まないといふ位厚き信頼をうけておられる、實際夜食など午後十一時十二時といふのは常だときく、此吉田院長がまた禁酒運動には非常な御熱心、私は十一時すぎまで他の方々と御邪魔して此度の五十錢運動、各小學校へ教材となる酒及タバコのポスター册子の寄贈運動についてお話をした、「友」がこゝにもあつたといふ氣がしてうれしくてたまらなかつた。臺灣の小學校は背負ふといふて下さつた事を後できいた。此時話を一緒に聞いて下さつた元山夫人は其息を此働きの手傳にと東京へ私の處へ御遣し下さつた、息龍之介氏は慈母の心を體して私共と一緒に働いて下さる、何といふ感謝すべき事ではないか。

臺灣總督府の財源たる五專賣の中、酒、アヘン、樟腦の工場を參觀した、叮嚀に案内された。酒やアヘンについてまた樟腦について學問した、書きたい事もあるが別に稿をあらためてする事にきめた、赤誠會の路傍演説は私には興味深かつ

た、多數の人だつた、千人に近いと云ふた人もあつた、七月一日の排日法がきつかけになつて此路傍での集會は每土曜土曜に行はれるさうである、生神樣といはれる「臺灣神社の神官もなさつて下さいました」と主催者の一人は私に話された私は、一日一刻でも住ふ其處に對しては責任を持つ市民たるべきものだといふやうな事を申した、皆むしろ敷いて常連といふ方々が座つて居られる、後には多數の群衆が起つて聞く勇ましいあたりの光景である、國を論じ道を語り、各方面の名士がそれ〲警世の辭を叫ばるゝ處となつてゐる、と。私としては何も持たない只女としては私が初めてゞあつたといふ名譽を荷ふたのみ。

十八日朝新井氏來訪、宴會の改良、事實の可否等について懇篤な教示を與へ且著書まで下さつた、斯くの如き熱心忠實なる士のある事を謝した。

十九日、赤木、小谷、井村の夫人方に案内されて淡水に行く昔日の面影靜かに殘る淡水港、初めて臺灣の風緻をば、こゝにも淡水富士といふのが小さく山をなして居た、世界至るところ火山によつて生れた美しい形の山は皆、我富士の名を稱せらるゝ事をおもしろく思ふた。富士山も大に自重するがいいと思ふた。

教會堂で集會があつた、淡水の中學女學校の生徒は殆んど來會された、全部本島人の子弟である、會後マカイ博士の墓に詣でた、博士は此島に來られて、本島人を夫人とし、全く此島の爲に其生涯を捧げられたメソヂストの宣教師である、幾萬坪といふ廣々した其敷地は淡水港を見晴し、教育の地としては實に最良の場所である、病院、教會、學校を經營される迄博士の御苦心は實に大へんなものであつたらう、只一片の墓碑そゝぐ水も、手向ける花もなかつたが、野の花を手折つて默禱した。あゝ人道の勇士!! 輝く報は、救はれし人々の胸に――。夕陽美しい彼方の丘、赤銅色の土、大陸的な丘陵の氣分は旅心をおどらしめた。

女學校の外人教師方の厚意になる夕食を頂いて降りだした雨の中を通つて停車場についた、場外の廣場に項羽か何かの扮裝でしきりに演舞する支那芝居が野天にかゝつて居た、雨の中をのどかに見物する本島人、旅にはめづらしいものゝ一つ。

歸りの車中マカイ博士の息と同車、種々傳道の實際についてお話をきく機會を得た、此夜は赤木氏のお宅にとまつた、本島人の女中さん、親切に御馳走したり、世話して下さつた夜本島人で初めて醫學博士になられたといふ杜總明御夫妻が訪ねて下さつた。

新竹の風

十月廿日、朝少しく雨降る、役員の人々に送られて丹下姉と南行の汽車に投ず此車に渡邊錫氏もまた屏東から北へ〳〵と臺北迄の各處傳道旅行される爲に乗車されて居つた。毎年一月五日には東京に留學される東洋の學生を招じて樂しく遊ぶ行事を持つて居る其會に、二度迄出席された臺灣學生だつた齊氏も此汽車に乗て居られた、車中窓外の景色について種々面白い話を聞いた、私共一行は新竹で下車した、此土地は風の名所で、新竹の風に基隆の雨といふ美しい對句さへある處である、名物もすぎては苦しい、かぶつてゐる帽子も風にとられさうであつた、清水やす子姉のお宅で小憩した、岩満、三浦の両夫人を初め三好先生のお迎をうけた、特にうれしかつたのは四年前、靈南坂教會で開かれた大會の時、上京されて出席された下村正治氏が忙がしい商業の間をわざ〳〵迎へて下さつた事であつた、同氏は今此新竹の中心となつて信仰の基礎を作つて居られる。

女學校で話をした、公學校、小學校の上級生も來會した可愛らしい本島人の娘さん等が、歸り道親しく挨拶して行くうしろすがたをまたなく私はながめた。

下村氏に案内されて州廳に佐藤知事をお訪ねした、丁度昨日新任初めて巡視をされた總督を迎へられた知事様の室は、物産が美しく飾られてあつた、親しく説明をして下すつた、こゝの名産だからといふて大きなザボンをむいて下さつた、角板山の蕃地を見學したいと申た處警務部長に御引合せ下さつて萬端の便宜をはかつて下さつた、旅の者に對する此打ちとけた應接は實にうれしかつた、夜は旅館塚姫家に宿つた、この女主人は林歌子姉と同じ教會であつたとかで一層心安くとまる事が出來た、夜の公開演説會は靜ないゝ集りであつた。歸る道天は近く星は清らかにまたゝいて居た、臺灣の夜の空は何ともいへぬ神祕さを私に傳へた。

廿一日朝人々に送られて新竹を發つた、一方ならぬおせわになつた下村氏にこゝで厚くお禮を申上る。

臺中―臺南へ追分廻つて

新竹から臺中に行くのには海岸線と山巡の二つである、今日は海岸線をとつた、追分で兩線は合ふ事になる、そこまでわざ／＼臺中から若宮、山口兩夫人は迎に來て下さつた、此邊の地形は遠く新高を眺めて實に雄大な景色である、臺中は本島中部の大都市である、人口は三萬五千、其中内地人は九千程在住する、中學女學共に二つ、小學は二十を算する、内地延長といふ建物などもある、何か旅のものにはそれが、みすほらしく見えたが、私の眼のあやまりかもしれぬ、こゝでも州知事をお訪ねしたが御不在學務課長に御面語した、午後二時臺中座での集合に出た、夜は聖公會の樓上で樂しく集つた、北斗の郡守石渡榮吉氏御夫婦はわさ／＼來て下さつた、京都の大會での知己斯うした事は實に嬉しい事、青山の母の會でお會ひした林原夫人もゐらつした、ほんとにせまい世の中である、また南投からも來會された、山本、長澤の兩夫人南投には支部があつたが今は臺中に集中されたと、林歌子女史が南投に行かれて、矯風會を組織された時、一合にはぜひ小使が一人いりますがな、誰れか小使になつてくれるお人がありますか」と林師に言はれて「ハイ小使なら私がいたしませうと言下に答へられたのが長澤夫人であつたと、「小使は支部長といひますのや――」と立派に支部長を決めて歸られた逸話がある、さすがに元氣な方々である。

樋口牧師の御案内で臺中の町を見物した、此地の水道は珍らしい掘拔である、臺中の公園も美しい。次の日朝六時半で臺南に向ふた。途中濁水溪を渡つた見事な濁水だ、嘉義驛より水上の間に北回歸線の標塔を見た、走る車の窓からコダックに入れた幸よくとれた暑さは加はつて來た、車中旋風器は盛に廻つてゐる、もうこの邊からは熱帶地である、きけば、ヤモリも嘉義から南のものは鳴くといふ、臺中の旅舍で初めて其聲をきいて人のうわさよりもズット美しい可憐な聲と私は思つた純一夫一婦の蟲だと聞いて其なく言葉さへきいて見たいやうな氣がした。

臺南に着いた。なにがなしあかるい都といふ氣がした、そ

れで居ておつとりとしてゐる、内地の京都といふ處だと聞かして頂いたが京都よりもむしろ私には奈良といふ氣がした。

庄司支部長初め多くの方々が迎へて下さつた、齊氏も此地の方である出迎の中に美しい本島服を着て迎へに來て居られた、停車場前の家や旅館に投宿した、此家の女中は下谷の者話があふてうれしかつた、もう十年近くこゝに住むときいた實に氣持のいゝ宿だつた、晝は公園内の緑亭で會食した、藤井孝子姉の姪島田初子姉も來會された、女子學院の出身者だ山崎姉は三十年來婦人新報の讀者であると伺ふと何ともいへぬ感にうたれた、樂しい食事の後私共は州廳から廻された自動車で町見物に出掛けた、案内は野田氏實に親切な行き屆いた御案内だつた臺南神社に詣で北白川宮殿下の薨去された御苦勞に對し私は感泣した、知事夫人松井照子様を官邸にお訪ねした、あす總督が御出になるといふ御多忙の處を御面語下さつた、種々接對受けたお禮を述べて辭した、鄭成功の廟や赤嵌樓、孔子廟等、刑務所にもいつたそこで加工されたものを見た、少しばかり記念に買ひとゝのへた●

支部長庄司夫人の御良人は病院を經營されて居られる、眞の本島人住宅地の一角である、此臺南は内地人と本島人とが入りくんで生活して居る處が多いと伺ふた、結構な事と思ふ、夜公會堂に集會七百人から集まられた、丁度二階では教育界の方々が幣原博士を歡迎されて居た、次の日の新聞に下は守屋女史の禁酒講演二階は博士の歡迎に酒が出て盛であつたと出て居つたとわざ〳〵私に聞かして下さつた方があつた、不幸にして其新聞は見なかつた。臺灣に來て街路樹の立派なのには一番感じたが、此臺南のほうほう樹の並木の美觀には及ぶものが少ないと思ふた、何してもすぐれた天與の多い土地である。

廿三日午前に臺南の高女で話した、此校の名物はプールであらふ寄宿舍は總檜、二十萬圓の工費で出來た其建物のすばらしさ、とても東京の町にはない、歸りに郡守荒木氏のお宅に一寸御寄りした、新築された建物は、いかにも土地にふさはしいものゝやうに拜見した、時間があればゆる〳〵拜見して勉強したかつたが殘念ながらすぐお暇した●

臺南出發の時、停車場の前で人々と寫眞をとつた、高夫人は私に蛇のおびどめを下さつた齊氏はまた蛇のステッキを下

さつた、丹下姉は蛇が大おきらひ、私は此めづらしい贈物を特によろこんだ丹下姉は、「それは私に關係のない荷物ですよ！」と無聊な車中のいゝ話題になつた、死せる蛇生ける丹下部會長を追ひまはす、などゝ私は笑ひぬいた。

高雄から屛東

廿三日午後一時高雄に着いた、こゝでは男子の方々に迎へられた、松本姉の令兄も迎へて下さつた、高雄は近頃州廳が開かれた處である、港には多くの船舶輻輳して將來大に發展すべき處と聞いた、此地はもう全く熱帶の氣候、五ヶ年平均雨の日が一ヶ年に九十三日といふ事だ、夏の盛でも九十幾度には昇らぬよし、都合よく夏季は雨期で、照りつける盛に、ザアッと一雨ふつて濕ほすよし、天の妙は斯うした處にも顯はれて居る。

夜の集會は愛國婦人會の婦人會館で開かれた、此建物は、婦人會員の努力によつて建つたものである、現知事富島夫人の熱心は遂に愛國婦人會の事業として此會館を建築さるゝに至つたのである、廿四日午前中街長其他を御訪問して遂は港口官舍に知事夫人の御案内で幹部の役員方と會食を頂いた、美事な海老、かにの名所丈に御馳走もさうしたものであつたそれにもましておいしく頂いたのは諸夫人のこだはりのない御接待振であつた。二時の汽車で屛東にゆく事になつて居つたので御暇した處が、皆樣が親しくお送り下さつた、快活な知事夫人の御感化に夫人がたの御元氣な事、ほんとうにうれしく感じた、心おきなきお交をして私共は屛東にたつた。此高雄迄が本線で屛東は支線となつて居る、その爲とかく屛東はぬかされる、東洋一といふ長い鐵橋を渡つて屛東についた伊江牧師初め多數の方が迎えて下さつた、早速教會に行つたそこで親しい感謝會と親睦會とをした、狹い小い會堂ながら主にある友の睦は温い、夕食は渡邊街長の御案内をうけた。此夜は私は伊江牧師宅に、丹下姉は數へ子にとりまかれて他家に宿られる事となつた、今度の旅で初めて屋根を異にした處に宿るといふわけである。伊江牧師の熱心な自給傳道は大なる働をして居る、内臺人の合同が自然に行はれて居る、牧師は嘗をなしつゝ傳道されて居る、本島人家屋に住まれて居る神戸港で初めて御面語した丈の方であるが百年の知己の感で

ある、夫人は鹿兒島支部の會員であつたといふので一層親しみが加はつた、夜は公學校で集會があつた、此學校の給仕小使は皆蕃人の子弟である、今歐米で流行するやうな、小ひだの澤山とれたスカートをはいて、光る瞳でジツト見る彼等は例外である、それに實に從順だと校長は話された、此夜は牧師夫妻とふける迄お話し合つた、次の日丹下姉と共に御案内をうけて各所を見た、先づ本島人の教會をお訪ねした立派な建物の教會皆純眞な金のみで建てられたものゝよし、今猶其建築の費用が不足して居る事をきいて御同情した、レプター枚捧げた、會堂内で私共は本島人牧師及二三の有志方と共に讃美し祈りした、臺灣語をローマ字で書かれた讃美歌を牧師に乞ふて頂いた、此時御一緒に歌つたのは「こけやすくひの船を」であつた。

笠城社の蕃人が住む小屋の模型がある、そこに行つて蕃婦の人々にも面會した、私共の骨格にそつくりである、警官に挨拶する彼女等の聲は眞からうつくしい。

臺灣製糖會社を訪問して見學した、此會社には大正十二年に皇太子殿下が行啓をされた、其時の御休憩處につくられた建物の竹の筒から芽がふき出て、今は立派な竹の叢生になつて居る處がある殿下の御徳と人々は大事にして居る、此會社は一日五千萬圓力の大會社、盛な其力を見學した、出發時間がおしせまつて居るので忙しくしてお暇した、街長渡邊氏初め會員其他に送られて屏東を出た、農事試驗所に働かるゝ石神氏は見事なパパイヤを一籠下さつた、屏東はパパイヤの名所私はどんなによろこんで此木瓜パパイヤを食した事であらうバナヽといひまた此木瓜といひ此土地の惠の賜である。

嘉義より虎尾へ

屏東から再び臺北に歸る途中嘉義に降りた、郡守河東田夫人錦織夫人に迎へられホテルに入つた、夜は公會堂に集があつた、司會者はあとで「私は今講師が話された通り、見切品で御座います、云々」と述べられて私の話を明にして下さつた飲んで身を害し苦しんで居る大人見切品といふのです、見切品にならぬ子供の時から酒タバコの害を教へるのが我等の責任と考へて居る。

日曜の朝は日基で話をした、新たらしく獨立した教會を建てやうと熱心される兄姉の上に私も心から神の恵を祈つてやまない、阿利山の材木を製材する工場を一寸見た、錦織夫人は最近臺北から此地に來られた方、其お宅へ伺ふた、行く道高樓が軒をならべた處を通つた、いはずして知る事が出來る白奴の一團である、此中に捕へられて居る女性が解放さるゝ日はいつ？　白く塗りこめた此墓の如き建物の背後に在つて

指揮するものがある、知つてか、知らずしてか只己れの利慾の奴隷となつて居る人々である。金を得る手段としては此一事にます業はないと彼等の叫びは強く世にはびこつてゐる、

嘉義を辭して虎尾に向ふた、初めて支線に乘つた、煙の多い機關車、小さい車、甘蔗畑を縫ふやうにすぎてゆく、平原の入日は遠く稻田に消えてゆく、雲の輝きまたなく尊い。小倉夫人はわざ／＼途中迄迎へて下さつた、實に教育に熱心な信仰の厚い御婦人、車中もなにくれとなくお話する、丹下女史と同じ學校香蘭に學ばれた方といふ。虎尾は全く製糖會社王國である、凡ての設備機關に至る迄會社の有る故に設はるといふ形である、從つて改良も、新設も自然會社の方針によつて查るのであらう、公會堂もホテルも皆社の有、住宅地、工場地等についても時がなかつたから拜見出來なかつたが、然し御意見は聞く事が出來た。集會も殆ど會社關係の人々であつた婦人方は殘つて親しく兒女の教育についてお話し合ひした、十一時すぎホテルに歸つた、何といふ靜寂な所であらう、全く音はない、忙しく働く者には此靜氣がまたなくうれしい、なれた人にはそこに新たらしい慰と、心の平安をうる宗敎がなければならない處だと考へた。殖民事業の中心は信仰でなくては出來ないとさへ此時私に思はしめた、地軸に達するやうな此靜寂は、只何もしらぬ人の子には尊厳すぎる、不可解だ、罪惡でも作り出さないでは居られない心の衝動は酒にもなれば女にもなり、心なき淵に落ちてしまふのだと思ふた。私は心から祈つた、そして感謝した、幾十年の昔、此地に來つた人の苦を思ふて天をあほいだ、幾千年來彼處にまたゝく星影、今宵も輝く言はず語らず、人の子が自ら悟る日まで待つ慈愛の光を遠くよりなげて我等を見守る。壯厳な夜の十二時すぎ、私は時のたつを忘れた、けたゝましく鳴いた鳥の聲に我に返つて室に入つた、虎尾の一夜は私にとつて忘れがたいものとなつた。

虎尾の朝は靜にあけた、また日の出ぬ中に停車場に急いだ夜露にうたれた花の香は地にたれて私共を迎ふた、何といふ香氣だらう、殿上人でもよもやこれ迄に香焚する事は出來まい、ほんとに花の香によふ、人々に送られて車中の人となつた、斗南驛で小倉夫人とお別れして本線に乘つた、私共の荷物は多くなつた、西瓜のザボン頂いてよろこぶ私を丹下女史は見て笑つてゐらつしやる、何でも斯うした珍らしいものは内地の人に見せたくて困る、ホームの娘等に食べさせたい、など、思ふ。百聞一見にしかず、ほんとに内地奥樣達も來て見る事になさるがいゝと思ふた、一重の衣類を作らないで、見聞を廣める工夫をなさるはづだなど、一人で慨歎した御馳走になれば考へ、美しい景色を見れば一人で見るのを殘

念がる、誠にやつかいな自分だなあと思ふた。

車中はマックラウト博士や、中瀬拙夫氏などゝ一緒になつたので話は絶へなかつた、私はマクラウト博士 屏東でもらつた臺灣語の讃美歌のよみ方をならつた、鼻音がよく出るとほめられて熱心に讀んだ何よりも先に子供らしさに自分で笑つた。

臺中驛前で石渡夫人が出迎へ、立派なパパイヤ一籠持つて來て下さつた、隨分込み入つた遠方のお住居から斯うして來て下さる御親切は容易でない。臺中では樋口牧師の夫人其他の方々が來て居て下さつた。

荷物はますく増した、蕃地見學をするものにはとても堪へられない數である、中瀬氏は私共に同情して皆臺北まで持つて歸つてあげると申されたのでホット一息ついた、藤園の驛で中瀬氏とマクラウト博士に別れて、私共は下車した、身輕なよろこびを禁じ得なかつた、一つ丈小さいカバンを私は持つた丈であつた、丹下姉と改札口に出やうとすると平服の巡査が名刺を示して、昨日からお出があるかとおまちしたとの事何もかも此方がして下さつた、佐藤知事から私共が蕃地入りをするとお通知があつた由、感謝の至りである。

旅にはいつもおもひもつかぬ笑話がある、赤毛布などゝいふ私共一行にもあつた、丹下姉が藤園の停車場を出てからしきりと足が痛いと云はれる、どうして急に痛み出したものかと私は思ふた、しばらくすると同姉が「あゝ靴か右と左とちがつてゐる――」と並木の下で靴のはきかへを初められた、私は腹も痛い程笑つた、同姉は眞面目な顔で「どうりで痛いはづだつた――」としばらくしてからふきだされた、案内の巡査は遠くから私共の手間取る理由を知りたそうにふりかへつてゐた。

藤園から私共はトロに乘つて蕃地に入つた、トロといふものを上下に使用する本島人の妙技に驚いた、大溪に此夜は宿つた、那須大兄が出迎へて下さつた、街に出で庶務課長に御面語した、そして此街でも話をするやうにと申渡された、此夜はおそかつたので大溪にとまつた、翌朝早く雨の中途を再びトロに乘つた、登つてまた降り登つては進む、其山道のあたりの景色は、小雨につゝまれて蕃地などゝいふ感じはない熱帶地にのみあるといふやうな植物、シダの類の大きいのに驚きつゝ進んだ、いよく蕃地角板山に着した時は十一時すぎであつた、三井舍宅の山内夫人に迎へられて直に警察に行き署長に御面語し交易所や、其他を参觀した後蕃童教育處を見た、兒童が紺絣をきて三尺しめて、元氣に勉強する有樣は内地の子供と異りはない、暗算なども上手な事、話方なども見事であつた、其人に挨拶するおじぎなどの樣子は全くよくも斯う乏しこんだものと思ふ程訓練されて居る、此子供等を山奥の蕃地からこゝまで出すさへ親は喜ばないさうである、然し一度出して教育をうけた子供の進歩した有樣を知るに至れば親も親しみを感じて來るとの事である、此蕃童學校の出

身者で今は立派な醫學士をなつた人物が二人まで居られる、其一人字都木兄妹に御面語した、土地の人は先生々々と尊めて居る受くべき敎育が早かつたものと遲れたものとが文明の差であつた此番童敎育について非常な興味をもつた、只二時間半を此地に過して引き返し大溪に歸つた、トロは早い、降り道は、カーブする時ふく笛に言ひしれぬ哀調を感ずる、此あたり今日迄蕃人の首をさけて往來した處だらうなど〻思ふとふしぎ位、大溪では雨の中を人々は集まつて來られた、一場の話をして、またトロの人となつて下りた、山溪廣くして水淸く名產として鮎をつると。

臺北に此夜無事に歸つた、丹下部會長の今日までの御指導を感謝する。金平夫人三井夫人に迎へられた。

天長節は總督府の祝賀會に招待された五千人の一人となつて末席をけがした、遠くこ〻より陛下の萬歲を唱へ奉つた、蕃人が正裝して今日のよき日を祝さんためにおどつた、其聲のほがらかな、ふしまはしの單調な、晴れた晩秋の日に流れるやうに耳をうつ時太古の有樣を見るやうで涙がにじんだ。

一日二時間のあき時間を自動車をかつて北投に行つた、溫泉地、其邊の景色ほんとに心持のい〻ものであつた、何もかも忘れて外氣をすふた、臺北は斯ういふいひ郊外を持つてる!! 此塲所は井村夫人の御良人臺北新聞社長井村氏の開拓にか〻ると、然し今其溫泉地は全く俗化して子女を伴ふて遊ぶには考へを要すると、殘念な事である、只其行く道は何のさしさはりなく健全に心を慰むるに充分である、私はあの道を眞から愛する。

星加夫人は私の爲にお客をして下さつた、ホテルで、ほんとに御親切な事だ、招かれた方々もよろこんで下さつた、心から御禮を私は申上る。

ニコルス夫人が姉樣のやうについた日から私について世話して下さつた、其車を借して下さつて働を助けて下さる、南に行く時は、暑いから此衣物を持つてるらつしやいと何から何まで世話して下さつた、いつも美しい聲で、世界すべてが此聲の通りだといふやうな笑聲、きくものまでが平和になる

臺北に行つた日ぜひおめにか〻りたいと思ふた李氏は少し前に眠られた、其息の夫人は三好氏の女、私は夫人が李家に入られた事を感謝する、また李家が美しい信仰の家庭であられる事を感謝する、そして其慈父李氏の御葬儀前告別式に參列出來た事をうれしく思ふた。

臺灣訪問は私に大きなものを幾多與へたかしれない、私は臺灣を愛する一人となつた、臺灣の爲に祈る人々と共に祈る友となつた、臺灣に永住し其土地の人となつて臺灣を我故鄕とし責任を以て荷はんとする兄姉の間にある十字架を見た、そして其十字架を明かに負はる〻やう祈り願ふものとなつた私は多くの人々に愛されて十有九日を其地に働く事が出來た感謝に堪へないほんとに有がたうございました。

四人娘と太平洋沿岸の旅行記

一九二四、一〇、八　桑港に於て

千本木道子

口

「私共は日本に參りましておかしな名を頂きました、それはアメリカ生れの四人娘といふ名で御座います、これは新聞社の方々がおつけ下すつた名で御座いますが、始めはいやで耳ざはりでなりませんでしたが、しまいには平氣になりまして自分達も四人娘といふ氣になつてしまいました」といふのは一人の娘さんの講演中の一節でありますが、此度はからずも、先頃シヤトルから日本觀光に參られた宮川とき、宮川たへ、岡崎すみれ、木村きみよの四人の娘さん等と一緒に太平洋沿岸の旅行をする事になつたので御座います。

これ迄太平洋の沿岸を訪れた人は澤山ありませう、そしてその方々の密かに胸にいだいて居らるゝ色々の苦心に耳かたむけた人も澤山ありませうがその苦心を見又聴いて居る間に、あゝこの點である、內地に居るものとしてせねばならぬ事は、卽ち彼地で生れた息子娘等にその父母の國日本といふものを眞に理解させねばならぬとみてとられた守屋姉に衷心より敬服しかつ感謝致して居ります、私は守屋姉があれほど迄に四人の娘達の日本觀光に對して努力して居らるゝ事が、少しも沿岸の事を知らぬ私にはよくわからなかつたので御座います、私がこちらに來て驚ろいた事は此の沿岸に生れてまだ日本を知らぬ子供達から日本といふものに對して發せらるる質問に就てゞ御座います、よく西洋人が日本といふものに就て知らない程度に就て驚ろかされるといふ事ですが、所謂

アメリカボーンの子供達もそれと同じなのです、彼等は全くアメリカ人と同じ教育をうけて居るのですからわからない筈なのです、その様に同じ教育をうけ又友達ともなりそしてアメリカの市民權をもち全くアメリカ人となつたものと思つて居つたものが、一度校門を出てしまいますと全くその人達との社會は違つてしまふのです、排日といふのではない、油と水といふ感じなのです、如何しても一緒になり得ないものがあるといふ氣が致しますが、兎も角も社會に出る時になると自分は日本人であるといふ感じを明らかにもたされる樣になるのです。然るに子供達の目に映ずる日本人なるものは如何なものでありませうか。アメリカ人から始終ジャップ〳〵といつて排斥されて居る人種としか見へないので御座るます、而して又日本といふものに就ては東洋に於ける小さい島國で貧乏な暮し難い國としか思はれないのです、市民權を持つて居つても自分達は何處までも日本人であるそしてその社會にはひつて行かねばならぬと思ふ時そこには色々な複雑な感じが起るのです、矢張り彼等は彼等自身の社會を作り生存して行かねばならぬのです、沿岸の人々は此アメリカボーンを第二世と申して居られますが、第二世の將來之れは此の太平洋沿岸に於ける重大な問題であつてすべての同胞が心をよせて居る事なのです、而して排日案が通過していひしれない重い氣持ちになつて居る、かうした空氣の中に彼女等四人は日本からシャトルへ向けて歸つて參りました。

□

歸つて來られた翌日私は山鹿牧師宅に用事があつて參りました、その時に宮川姉妹が同牧師宅に見へて居られました、同牧師は報告演說會をしたら如何だらうと申て居られました、その後話は進んで基督教聯盟の主催で日本館で日本觀光談の演說會が開催さるゝ事になりました、彼女等が餘りに多くの新聞雜誌に紹介されておりましたがため此のシャトルの人達から非常に注目されて居つたので御座います、其の娘達が日本服で日本語で日本觀光談をするといふのですから會場は定刻前に一つぱいなのです、其の前々日に私は彼女等が属して居りますバプテスト教會の歡迎會に於てあらましの話をきいて居りますので安心はして居りましたものゝ、聽衆が聽衆なので祈るより外ありませんでした、教會の主催なので祈禱を

以て始まりました、宮川萬平氏が親としてその企てを思ひたたれた時の事を述べられ又私は婦風會として一言の挨拶を述べました、次に四人の娘さん達は

シヤトルより京都迄　木村君代

京都よりシヤトル迄　宮川妙

旅行感想談　岡崎菫

教會、學校及婦人　宮川言

といふ順序で談り出しました。

□

なつかしい親兄弟、それから親しい友達に別れを告げてシヤトルを發つてから十日間も船に醉つてねて居つた事から日本語の下手なために船員から「瀬戸内海きれいところ澤山ある」といふまづい日本語で答へられてがつかりしたと滑稽味を帶びた話し振りで始まりました、而して横濱に就てみたところが立派な大きな港であつたのに驚ろきかつうれしく思つた事から、生れて始めて人力車といふものを見これに乘つてみた時には、後ろにひつくりかへりはしないかと心配したら、男の人に(人間といふ意味)ひいて貰ふのが氣の毒でたまらなかつたといふその經驗を語り出しました時に聽衆はしつくりとその話しに引き込まれてしまいましてガタ〳〵音をたてる人が氣になる程になりました、それから東京に着いて守屋先生が病氣中なのにもかゝはらず起きて迎へて下すつてうれしかつた事、翌朝目を醒まして今日は船がゆれないといつて居つたらユラ〳〵と家が搖れてビックリして居つたら守屋先生が地震迄があなた方を歡迎して下すつたのだから喜びなさいと申されてよろこんだ話等しました時には聽衆も亦喜んでしまいました、その後岡山の婦風會に出席した模樣、行く時に三等の汽車で行けといはれて乘客の混雜に閉口した事、(只無暗に日本で歡迎されて居つたと思つて居つたのに、さうした三等の汽車の經驗までさせて下すつた案內の徹底ぶりを喜ばれた方のあつた事を後で知りました)櫻花の美しかつた事、三井邸の日本風の庭の見物、學校の參觀、それから鎌倉、葉山、名古屋、伊勢神宮の參拜、二見ヶ浦、奈良、大阪の見物の話をくはしくよくもあゝ名、又は歷史を覺へられたものと感心する程に話しました。

□

君代さんの話しの後をついで妙さんが京都からの話を始めました、京都の御所に對する同姉の氣持はほんとに多くの人人の心をしんとさせました、紫宸殿は天皇の御ゐでになつたところといふのですからどんなに美麗な所かと思つて參りましたが餘りにその御質素なのに驚ろきました、仙洞御所も同じで御座います、然しその御質素の中にいひしれぬ壯嚴な感じが致しましてかうした所をみせて頂く自分達の幸福を有難く思ひました、桃山御陵に對しても同じ感じをもち明治天皇の御偉徳を守屋先生は色々ときかせて下さいましたと述べました時に日本の國體の中心をよく見て來たといふ感じを起させました、京都は矢張り落ち付いた美しい都 彼女等にも思はれたらしう御座います、只嵐山で御花見の客が御酒によつて居るのを見て御花が見へないだらう氣の毒たと思つたと申しました時に此の禁酒國でかくれて飲んで居る連中には大分いたい言葉らしう御座いました、天の橋立、琵琶湖めぐり、吳の軍人ホームそれから兵學校、伊勢軍 參觀、嚴島見物をして各々郷里に歸つて五十日間を過し、その後再び東京に集まつて殘りの見物社會事業の見學又日光及松島見物等の話しを致しましたがほんとに日本國中を繪巻物で見る心地させる程によく話されました、而して妙さんは「日本には色々なそれは方面があります然し人々が親切であつた事、景色の美しかつた事は私にとつて忘るゝ事の出來ない印象でした、行く時には只日本を見物に行くといふ輕い氣持で參りましたが歸るその時には全く變つた感じを日本に對してもつ様になりました、父母の國を愛する様になりまして別れが惜しまれましたと結びました。

□

菫さんはガントレット夫人から教へ込まれた赤帽さんを西洋人がドロボーさんとよんだといふ面白い話を以て始め、自分は日本語が下手だから英語でするといつて英語で話されました、主として日本の風俗習慣を話されました、寫眞でより他見たことのない叔父さんにあふのに胸おどらせた話から日本の家庭の御座敷の様子、それから納豆賣またはお豆腐屋さんの呼聲等私共にとつては普通の事が只面白く感ぜられた話をありのまゝにされて私等も聞いて居つてなる程と思ふ様でした、而して「今迄自分は日本といふ事は何も知らなかつた

けれども美しい繪の樣な國であり、また二千五百年の歴史をもつ立派な／＼國と知つてうれしかつた、實に日本といふ國が自分にとつて近い／＼感じをもつ國となつて來たが、自分の友達でデニスンカレッヂを卒業した人がある、その人はいつもアメリカ人から「日本とアメリカとどちらをよりよく愛するか」ときかれていつもその答に苦しんだそれでその人は「それではあなたはあなたのお母さんとスキートハートとどちらをよりよく御愛しになりますか」と答へられたといふ事をきゝましたが、私共の生れたアメリカはマザーであり日本はスキートハートである、どちらを多く愛するといふのは出來ないどちらも愛する、この愛するもの二つの中に立つジャパニースアメリカンなるものは大きな責任をもつものである」と英語により多く親しみをもつアメリカボーンの人々の心を隨分動かしました。

□

終りに宮川ときさんが學校、教會、婦人に就て語られましたが、先づ學校に就ては小學校の全國至るところによく行きわたつて設備されて居る事、女學校の生徒達の有樣、そしてその先生と生徒の間柄がアメリカは友達の樣であるが日本は全く師弟といふ感じをもたせられた事、學生が眞面目であつた事、そして學生同盟會の働き、無酒デーの時の有樣を語られました、教會に就ては教會側が始終社會にたつて指導の位置にたつて居る事、ミショナリーの働きに就て述べられ婦人に就ては例の私共が叫んでをる藝者問題に就て語りました、そして最後に守屋姉が如何した氣持で自分達にかふまでして眞の日本を見せて下すつたかといふ事を婦人新報に出てをる同姉の旅行記の終りの句をひいてそれを讀み、ほんとに自分達が此度日本を訪問して見て自分達の位置がはつきりわかりました、自分達はいくら市民權をもつて居りましても白人からみれば何處々々までも日本人で御座います、そうしてみた時に白人の中にも彼はアイリツシ、フレンチ、スパニシといはれて居る樣に自分達も矢張りジャパニースとよばれるのは何でもない事である、決して、日本といふ國は恥かしい國でも何でもない立派な國である、そして日本人の血といふものが決して恥づべきものでない、日本に於ける眞の日本人を知るために日本に行つて御覧なさいそしてよくその人

達と交はつて御互の長所をとり此の沿岸に於てジャパニースアメリカンとして立派に生存し、そして両國の中間にたつて平和のためたつべき責任をもたせられて居るものであると終りを結び四人揃つて禁酒デーのマーチを歌ひ會衆一同も互して歌ひ出しました。

□

沿岸に於て誰もが持つて居つたその暗いかげが拂ひのけられた様な、娘息子等のこれからたつべき鍵を與へられた様なよろこびの空氣をもつてみたされました、只感激にみたされてある方のごときは眼に涙をためて感謝されました、その晩私はうれしくつて餘りエキサイトしてしまつて如何してよいかわかりませんでした。

そのよろこびをもたれた教會の方々は沿岸の兒童のため此の話を是非沿岸中にきかせねばならぬとその計畫を早速企てられました、勿論これには多くの費用もかゝる事であるが信じてやらうといふ事になりました、其時に四人の娘だけやるといふわけにも行かぬがあなたが九月加州旅行をなさるなら監督がてら一緒に旅行して下さらぬかといふ事、丁度私も連れが欲しいと思つて居つた時であり、矯風會で關係して居る事柄でもあるので、よろこんで御一緒に參りませうといふて一緒に出かけたので御座ゐます。

九月六日私共五人はポートランドに向つて發つたので御座いますがその前にシャトルの近邊のタコマ、ペーション ウエンスロー、ファイフ、その他二ケ所程講演に行きました、何處でも家族中總出できゝに來られてこんなに多くの人の集つた事は少ないといふ事は何等の集會に於てもきゝました、そして人々の心を動かします事は不思議に思はるゝ程でして感謝の他ありませんでした。

ポートランドに參りしたら植村牧師には御病氣だつたのにもかゝはらず色々と準備をして置いて下さいました、アメリカボーンガールスの心づくしの歡迎晩餐會に出まして可愛らしい氣が致しました、シャトルの娘とポートランドの娘とが仲よく遊ぶ有様をみて美しい感じをもちました、講演會は教會に於て催されましたが矢張りこゝでも人々の心を動かして感謝の中に終りました、オレゴン州はポートランドだけで加州へと參りました。

□

扨九月十一日桑港にての講演、大分ワシントン州、オレゴン州とは氣持が違ふ樣なのです、日本服でとの事なので支度をして日本人のリフオームチヨルチに參りました、大きな教會で澤山の人が集まつて居られました、それ等の人々は熱心に語る彼女等の氣持ちにすつかり動かされてしまひました、翌日はオークランド次はアラメダ、バークレーと每晩講演に出かけました、御親切に案内して下さる方がありますので桑港のあちこちを見せて頂きました、その間に日本人の靑年會の方々の大きなリセプシヨン西洋人の靑年會のポールトミーチイングで話をしたり、矯風會の晩餐會に出席したりしてほんとに孃さんたちにとつては忙がしい〳〵事でした、教會側の秦先生、靑年會の富澤氏東ヶ崎氏には隨分御世話になりました。

□

扨桑港をすませて海岸の方から參りました始めにサンノゼーそれからワツトソンビル、サリナスと參りました九月廿日愈々ロスアンゼルスに參りました、南加州の聽衆に就ても矢張り私としては心配でたまりませんでした、然し全く教會側の催しとしてありましていづこに參りましても讃美歌と祈禱を以て始めらるゝのがうれしく思ひました、同地の講演はユニオンチヨルチでしたが一つぱいの人ではいれずに歸つた人もあつたといふ事です、同地の近邊はハリウードパセデイナ、サンピドロ、リバサイドサンバナテイノ、モンタ、サンデイエゴとに參りました、又々こゝでも諸兄姉の御親切で諸所を見せて頂きました、一日の休みもなくそこをすませて中加州方面へと向ひました、ベーカスフヰールド、フレスノスタツクトン、サクラメント、ウオルナツグルーブ、ルーミスと講演を致しまして此の度の旅行は終りました、私はこの桑港に殘りまして彼女等はシャトルへと昨夜元氣よく歸つて行かれました、ステーションで見送つて家に歸つて靜かに一人になりました時、此の度の四十日間に太平洋沿岸の旅行のあとをふりかへつてみて人の工ではないたしかに神の攝理であつたと思ふより他ありません、感謝のおもひが胸にみちて淚ぐましくなりました、あゝ此度の第二世のためにまかれたこの種がどうか正當によく實る樣にと祈りました。

かうして歩いて居ります間に私は婦人會に出席して先輩諸姉の方々の知己を澤山知りまた親切をうけました、又ミセスピアソンをパセディナに訪問して共にミス・スペンサーを御見舞した事等もありました、行つて見たいと思つて居つたメキシコにも行きました、然しそれ等の事はまた稿を改めてかきませう。

矯風會の諸姉沿岸の諸兄姉等より此の度四人の娘さん等の觀光は矯風會の諸姉の盡力によるものであるといふ事をよろこばれかつ感謝されました、その時に矯風會が先頃日米問題に就て決議をされたその中の第三の一項は決議される前に既に着手されてあつたと思ふと實に何ともいはれぬうれしさを感じました、あの決議をなし、またかうして矯風會々々々と彼女等の口から洩れた矯風會の諸姉十萬の子女が眞の日本を知りつくすまでそのために努力されん事を祈ります。

これを憶へよ

一、造酒高　（税務監督局調査）
七百三十三萬一千九百三十五石
な一升金貳圓に見積り　洋酒を加へて
約拾五億圓

一、煙草製造ノ數量
巻煙草　二百七十七億七千〇九十二萬三千本
刻煙草　六百六十萬〇八百六十貫
右數量に對する原價
二億四千三百〇三萬九千五百四十二圓
に約一割の小賣利益金を加へて
二億七千萬圓

一、教育費　（文部省調査）
三億六千〇三十萬三千九百八十三圓
に私立學校費を加へて
約四億圓

◎内外國債
四十六億八千萬圓　（大正十三年六月中計算）
右國民一人宛負擔額　八拾圓〇貳錢
戰前（大正二年）は一人宛負擔額　四拾六圓八拾七錢

◎我國の正貨
金貳拾壹億九千萬圓　大正十年一月現在
金拾五億萬圓　大正十三年七月現在
此正貨の減少は我兌換券の基礎漸く危からんとして爲替相場下落なし
我國の百圓に付米貨四十弗以下にもなりし姿なり

榮養と食品

松宮しん

私共の眞の幸福は健康より生れるものであることは動かすことの出來ない事實でありますが其健康を增進するため居住地の選定や衣服の改良や食物の改善は其の主なるものでありますす殊に自分自身の健康、全家族の健康、又子供の完全な發育を望まぬものはありません、一家の幸福は全家族の健康によつて始めて求め得らるゝので、家族中一人でも病氣のものがあれば何所となく其家族には暗い蔭があるのであります、それで家とか着物とか又職業の如きものは私共の自由に任かせられぬ場合が多いのでありますが食物は各家庭で改良する事が左程難事ではないのであります。

○食品の成分

人間が活動する爲に必要な食物は五つの榮養素から成つてゐるのであります若しその五つの榮養素をとる事を怠るとその結果として病氣になり遂には死ぬのであります、それは蛋白質、含水炭素、脂肪、無機鹽類、水このほかにこれらの榮養を完全に行はせるヴイタミンといふものがあるのであります。

(一)蛋白質は人間の骨子であつて筋肉細胞を組立て、活動の源であるエネルギーを起し尙人體を發育成長せしむるものであります、蛋白質には動物性のものとしては、肉及魚、玉子、牛乳、植物性のものとしては、大豆、其他豆類、卽ち豆から造つた豆腐、味噌、醬油などに含まれて居ります。

(二)含水炭素、これは澱粉類と糖分のものであつて私共に力を與へかつ體量をふやすので、雜穀、芋、野菜、麵類、パン、唐もろこしの類に澤山含まれてゐる。

(三)脂肪、熱とエネルギーを與へる食物で、植物性と動物性とあつて植物性はごま、南京豆、胡桃その他植物性食品の有する脂肪、動物性は肉魚の有する脂肪であります。

(四)無機鹽類は身體の最も大切な骨や毛や爪や齒をつくり血液其他の機能を調節いたします、野菜又は果實、海草類、魚及動物の骨皮に澤山含まれてゐます、この無機鹽類の主なる成分は、鐵分、硫黃、燐、カルシユーム等であります。

(五)水は價なしで得らるゝものであつてその恩惠を感じる事が少ないがこれは決して輕視する事の出來ないもので、體温の調節や體内の排出物を運び出すのに必要なものであります。

以上のほかに保健上なくてはならぬものはヴィタミンであります。

○榮養を支配するヴィタミン

ヴィタミンにはＡＢＣとあつて、Ａは牛乳、バタ、玉子、動物の内臟及脂肪、Ｂは雜穀、野菜、Ｃは果實の汁などに多量に含んで居ります、このヴィタミンは非常に少しの分量でもつて榮養上役立つ、若し之れが缺けると榮養が完全にゆかない、或は發育がとまり眼病になり、又身體が痺れたり、腫れたりして脚氣のような病氣になり、或は壞血病といつて血がきたなくなる各種ヴィタミンの缺乏不足は恐るべき危險を釀すものであります、このヴィタミンは各種の食品中に含んで居りますが熱によつて壞れ易いのであつてＡは百二十度の熱で壞れ、Ｂは百度の熱で壞れ、Ｃは七十度で壞れる。

○人體の必要な榮養量

以上述べた榮養素を人間はどの位とつたらよいかといへば普通十三貫五百匁の男子が、蛋白質八十グラム、脂肪二十グラム、含水炭素四百五十グラム、水六七合、カルシウム〇、三二グラム燐〇、六二グラム、鐵、〇、〇〇五乃至〇、〇一グラム、が必要である。

○カロリーとは何か

カロリーとは即ち食物を攝取してそれから起るエネルギーの單位で私共が生きてゆく必要上相當な體溫を保ち、エネルギーによつて働らかねばならない、それで人々の仕事によつて、年數、體質によりことなるものであります。

一カロリーの力は一リツトル（五合五勺）の水を攝氏一度上ぐる熱の量であります、それで蛋白質一グラムは、四、一カロリー、含水炭素一グラムは、四、一カロリー、脂肪一グラムは九、三カロリーを起します。

○獻立と料理法

私共の榮養を保つ上に獻立を輕視してはならない事でこれは女中などに任かせべきものではない。主婦自身がよく注意して食品の成分と家族の體質とを考へて必要な養分を充分に含ませねばならない尚又料理法に就てはこれらの榮養分を損失せしめぬように火力の使ひ方殊にヴィタミンを破壞せぬ事や成分を惡化させぬように注意せねばならないのであります熱の作用といふものは蛋白質に働くとその蛋白質の成分を凝固させる、含水炭素に働くと被つている膜をやぶる、ヴィタミンは熱の度によつて破壞される、これ等をよく考へて料理せねばならないのであります。

以上は食品の榮養素の大體を述べましたが又次號より細目に渡つて私の實驗し又研究した事を御話しいたしませう、

各支部の方に

東京部會の家庭部として食物の研究及實習御希望の各支部へ御申込により御伺ひ申します。

奉仕の喜悦

（この一篇を正月中の座右銘として讀者に捧げます）

ガントレット恒子

一日

若し、我手、我言葉、我祈禱が、一人の迷へる者を神に導き、罪のとらはれとなりしものを、とき放ち、心の碎けたる者を醫し、倒れんとする若き者の足許より躓きの石を運び去り得たなら、淪落の淵より、溺れんとする靈魂を救ひ出し、孤し兒と寡婦の友となり、不義をくじき正しき者を援け、暗き世に一點の光明を投げ得たなら、よし、世の寶、世の名譽世の位置は我になくとも、我喜は充ち溢れ、天使の聲の「彼は主のため、彼の最善を盡せるなり」と云ふを耳にする事が出來る。——ヘレン・ジヤクソン

二日

愛は暗き夜を照して眞晝となす、
愛は、なへたる心を勵まして獅子の如く强からしむ、
愛は、狂へる心をいやして安息を與ふ、
されど、凡てにまさりて尊き愛は世の人を導きて、より高く、より良き生活に入らしむるの愛である。——バンダイク、

三日

其友達に忠實なる人は神に忠實なる人である。—ローエル、

四日

人格の美は、神と自然の法則を、遵奉する者に來る。——ウキラード、

五日

雄々しき努力は、如何に困難なる仕事をもなし遂げさせる唯一の道である。——アケンピス、

六日

汝の目はうるはしき狀なる王を見、遠く、廣き國を、見る

べし。イザヤ三三―一七、

七日

我等は、我等の凡てを捧げ、之が爲には、死をも恐れざる或るものをめざして、信仰を以て進ましめ給へと祈らねばならぬ、此信仰を有つ者にのみ、眞に世に盡すの力が與へらるるのである。――キングスレー、

八日

恐懼の中にも信仰を保ち、敵に對立して尙平和を高唱し、仇のかこみの内にありて尙之を愛す、是眞に神の子たる者の事である。

九日

浪は荒く、湊は遠く、檣は折れ、舟子は倒るゝとも、天に輝く星をたよりて、一心に汝の船を漕げ。――キングスレー、

十日

整ひたる容姿、謙遜なる態度、變りなき親切、いつはりなき愛は、奉仕者の特に携帶すべき良器である。

十一日

親切なる行爲は四重の喜となる、なす者の喜、なさるゝ者の喜、見る者の喜、神の喜である。

十二日

神の心を以て己の心となす、之れ、安心立命の秘訣。

十三日

それ神の旨に從ふ者は是わが兄弟、わが姉妹、わが母なり
馬可、三―三五、

十四日

何處にても、彼の女の居るところ、卽ちホームなりとの感を與へ得る婦人こそ、眞に婦人の指導者、否、世界の指導者である。

十五日

最も能く、世に奉仕せんためには、先づ自ら、高く、廣く、深く、深くならねばならぬ、かくあらんと希ふ我心は、やがて婦人運動となつて、現れたのである。――スーザン・アントニー

十六日

氣の毒と思ひ續けて手を空うする一日よりも、喜びて氣輕く手を借す一分は尊い。

十七日

人の爲に盡すのだと思ふ間の私は小い、知らぬ間に、感ぜぬうちに、凡ての人に盡すを喜となし得る時に、私は大きくなつたのである。

十八日

汝神に悅ばるゝ者とならんことを務め。また恥づる所なき工人となりて、眞の道を正しく頒ち敎へん事を務むべし。

十九日

さらば往けよ、我なんぢの口によりて、汝の言ふべきことを敎へん。出埃及、四――一二、

二十日

我費なしに燔祭を、わが神エホバに獻ぐる事をせじ。サムエル後、廿四―廿四、

我々は時間、財力、才能、勢力を費すことなくして、神に奉仕せんとする樣な愚を、繰り返して居る事はないだらふか

廿一日

神は我らが、諸般の患難のうちに、我らを慰め給ふ、是我等をして、神の我らを慰め給ふ安慰を以て、又諸般の患難に居るものを慰むることを得しめん爲なり。哥林後、一―四、

廿二日

眼ありて見えざるか、耳ありて聞えざるか、また覺えざるか。馬可、八―一八、

主の力のあらはれを日々眼のあたり見つゝ我々は、何故主を疑ひ、事にあたりては、爲すべきと知りつゝも、恐れ惑ふのであらふか、「我がなせし事、汝の友達を通してなせし事、汝を通してなせし事を覺えざるか」と主は我々の心の中にさゝやき給ふのではあるまいか。

廿三日

イスラエルよ汝の神に會ふ備をせよ、アモス、四―一二、

預言者の此敎は死の爲の備を指したのではなく、我々の日日の生活の中に、時々、刻々神に會ふの備を促したのである一日一日を神の日として、神の前に過す日として暮し得るを得ば最大の幸福である。

廿四日

善き行は一つにても失はるゝことなし、親切を播く者は友誼をかり取り、禮節を植うる者は友愛を收む。――ベシル、

廿五日

義務と責任を果す事は、恰も旅人が峠を越えて、向ふの村に入るに似たり、越ゆる峠は高くとも、嶮くとも越え得た喜と満足とは、何人も奪ひ得ることなく、ふみ入りし村は神の御座近き處である。

廿六日

將來とは新しきもの。未知の或るものが、我等を待つのではなく、我々が爲して來た過去の行爲が、我々の頭上をこえて眼の前に投げ出だされるに過ぎぬのである。

廿七日

庭に美しい花を咲かせ度いと思へば、先づ自分の心に美しい花を咲かせねばならぬ。

廿八日

人の良き友達となる事は、奉仕の最大のものである。

廿九日

感謝の言葉は銀なり、感謝の生活は黄金なり。

三十日

神の愛が人の心に入りて之を温め清める時、其人からは必ず温情と、光と、愛とが反射される。

三十一日

勇者の喜は勝利に非ず、奮闘にあり。
基督者の喜は人に仕へらるゝに非ず人に仕ふるにあり。

幕内姉と青年部

部長　ガントレット恒子

四月以來、青年部の責務者として、大槻とし子姉に代つて下さつた、幕内姉は十月限り、御都合上職を辭されました、ミセスヒアツンが御推薦下さつた當時から、永くは働いて頂けないと分つて居つたのであるけれども、今御別れせねばならぬとなると、今更の樣に御名殘惜しく感ぜられます。幕内姉は決して、派手な働き振りの方ではなく、何處に何をして居られるか分らない樣で、御目に掛つても用務の外は御言葉を交はす事さへ少なかつたのですけれども、職務には本當に忠實で、能く青年部が或る意味に於て獨立したばかりで、困難な會計の中を、能く整理して、帳簿も名簿も判然として机上に置かるゝまでに、御世話をして下さつた事を心から感謝します。

御在職の日が至つて淺さかつたので、青年部の方々も御顏は勿論の事、御姓名すら御憶へなさらない會員が多い事と思ひます、然し會の爲に、靜に、じみに、而かも忠實丁寧に盡された事を御知りになつたら、七百有餘の部員の心は感謝に動く事と信じ、部員一同に代表して紙上で御禮を申ます。

皆樣が、數ケ月の間でも、青年婦人會の爲に盡して下さつた幕内氏のあつたを御記憶下さい、又幕内氏も、いつまでも此小い部を御心に御とめ下さつて、職員としてゞなくとも今後とも御援助下さる事を信じ且つ御願ひいたします。

尙適當な若い御婦人で、青年部の仕事を御手傳ひ下さる方、若い方々の御姉さんとなつて、此重大な仕事に興味を以て、指導して下さる方の與へらるゝ事を祈つて居ります。

文藝の一つのはたらき

横山有策

一

教育、主として學校教育、は何を目標として行はれるか。

目下實際に行はれてゐる二つの大きな目標の一は所謂人格教育で、人間を作り、人格を練ることを主眼とする。別に一定の才能なり職業なりを覺えなくともよい、立派な紳士が出來上ればそれで十分である。いはゞ旦那式教育で又英國流とも云はれる。第二は之に反して職業を授け、技能ある人を造り度いと主張する。普通職業教育と呼ばれ、職人式、獨逸流の名を以ても呼ばれる。

米國は此兩者の中間を行くと稱してゐるが、實際は寧ろ後者に近い能率第一の方向にあるらしい。日本などは無論折衷中庸を稱へ、人格は高く、而して同時に職業に適する人材を造る事を標榜する。標榜するのは容易だが、之を實行し、實績を擧げることが困難である。いかに兩者の長所を併せ、いかにその短所を除き得るか。寧ろ思ふ、折衷は兎角兩方の缺點をのみ誇張して、更に美點を攝取し得ないものであることを、恰度ゴールドスミスの謂つたやうに「騾馬に似て兩親の缺點をのみ相續し、そして全く石婦(うまずめ)の如く生産の望みなきものである」美辭麗句を掲げて、高く標榜するものを信じないことが肝要である。

現在の日本の教育を忌憚なく批評してみれば、大方それは一つの特權教育である、と謂ふのが最も適切であるらしい。人格を練るためでも、材能を磨くためでも何でもない。一つの特權を得るためである。小學教育を終へなければ高等教育に入る門は開かれない。一年志願兵出願の特權もない。大學を卒業することは官吏、辯護士、敎師、醫師、その他百般の職業に就く特權を得んが爲めに外ならない。特權即ち卒業免狀を得さへすればよい。學問をするのも、人格を練るらしく

するのも、一卒業免狀を獲得する手段としてのみ意義がある。

勿論此狀態を醸し出したのも畢竟は社會の所爲である。社會が卒業免狀をのみ注意して、その人格も、その才能も、その天賦も、一切見ようとしないからである。社會が醒めて現在の教育と、その教育を受けたものとを、一切信じなくなることが改革の第一歩でなくてはならぬ。

二

教育は人を造るといふ言葉は甚だ不適の文字のやうである人である以上、誰が人を造り得るであらう。そればかりではない、今日の制度の如く個人教育が一切不可能な狀態にあつては、個人々々についてその生來の特質を引出し、エデュースし、エデュケートすることさへも殆ど覺束ない。吾々の望み得る最大限度は、若き人々をして眼を人間と社會とに開かせること、人生を見るの見方を指導すること、そして人間と人間の造りなす社會を知ることに由て、よく社會の一員として他と調和し、衆と共に此人生に適應する準備をなすことであらう。實に教育の目的は人をして人生に適應せしめるにある。

人生に適應するといふ言葉は廣い意味をもつてゐる。その爲めには人生に所するの道を學ばねばならぬ。しかしそれは學校教育の空理空論では存外用をなさない、寧ろ經驗の「隘路」を辿り〳〵つゝ、實世間の訓練に俟たねばなるまい、又吾々は人生に適應するために人生に向つて有用でなくてはならない。何かの技能をもち一二の職を覺えて人生に役立たねばならない。しかしそれ等の準備は人の思ふほどに重大でない。電氣の取扱ひ方法だとか、帳簿のつけ方とか、法律條例の暗記とか、實地につけば案外容易に又完全に習得出來るし又實地につかぬ場合には之を學んで置いても用のないことだし、そして根本的に困難な問題に逢到したら、その時往いて專門の大家に指導を乞へば十分であらう。

單に知るといふ點から云へば、天下知らずしてよきものは一つもない。茶屋遊びの方法も、賄賂を送るの道も知つて置いて決して差支ない。百科全書のすべてを大學の課程に編入してもなほ足れりとしないであらう。しかしそれの不可能なのは言を俟たないので、吾々はそれ〴〵專門の一局部を精査することで満足しなくてはならなくなる。學は年を追ふて徹

を極める。みゝずの生殖器の研究者だけでも優に一書庫を充たすに足ると謂はれる。醫學の博士はある局部の事に關してはもとより專門の大家であるが、人體全部の診斷には存外信が措けないといふ定評がぼつ〳〵行はれる。

　あるアメリカの大自動車會社では一臺の自動車を作るに約四十乃至五十の部門に分ち、是等の細部が集まつて一個の自動車ができるといふことである。其結果會社では熟練職工を要することが比較的少なく、常識ある人間は二三週間の訓練でよくその一部門を完成し得るから、ストライキの怖れがない。ところで此職工の十年一日の如く作業するところは、或は一片の細長き鐵板を作ることであつたり、或は一本の螺旋釘を製造することで二十年三十年を經ることになる。人間そのものが鐵板の如く冷たく、平たく螺旋釘の如く曲つてひねくれたものと變形するのは當然の結果である。そこで仕事に對する興味がないから仕事から受ける若干の報酬と、その報酬の購ひ得る些少の物質が勢ひ彼等の全生命にならなくてはならない。

　吾々が專門の學を修め、專門の業に從事はしても、人間そのものは專門にならない。人間としてのあらゆる要求は起り人間としてのすべての感情は動く。給金が專門でも女房を持たねばならない。法律が職業でも芝居の見たい折りもある。女房との交渉はサイン・コスで解決が出來ようか、損益勘定が隣人との交はりを圓滿ならしめるであらうか。

三

一人の專門家、一人の職業人、としてゞなく、一個の人間としての、みづからに取つては養ひであり、他に取つては理解であるものが文藝である。人間の動く發動力たる大條線を示すものが文藝である。一篇の小說を取つても——勿論それは偉大な作家の偉大な作品でなくてはならない。贋物御用心。そして註文に應じ原稿の紙數を數へ〳〵書かれたものでは駄目——その一篇を味ふことに由てどれだけ人生に眼が開け、心の奥所に光を與へられることぞ。それは必ず一つの顯示となり、強壯劑となり、思想材料となり、そして魂の喜びとなるに違ひない。

　殊に文藝の哲學思想などと異る一つのはたらきは、その具體的なことにある。ものを總括すれば抽象的な言語に依るの外ない。しかし知力の訓練時代に於て單なる抽象的な言語、善とか、愛とか、德とか、眞理とか、を徒らに弄ぶことは甚だ危險である。議論のために議論を弄ぶの結果を來たし、存

外人生の眞實に觸れ難い。人間の核心を把み得ないことになる。

「知惠は結極學校で檢査せられない。

知惠は之を有つてゐるものから、有たぬ者に傳へるわけに行かない。

知惠は魂に屬すもの、證明を容れない。それみづからが證明である。

………………。

今私は樣々の哲學と宗教とを再試驗する。それ等は講堂ではうまく證明するかも知れないが、

しかし、無邊の雲際に、山川と流れゆく河流に沿ふては全然證明せられない。」

オルト・ホイットマンはかう謂ふ。實際抽象的な迂餘曲折の論は、聽いてゐてチャームされる場合はあるが、堂を出て人の群居る廣場に立つ時、否くもの寂しい山あひに出た時、その中味の空虚なのに殆ど驚くのが常である。或はそれは中味の空虚なるよりも、寧ろ適用の漠茫たるに失望するのかも知れない。いづれにしても全人格的な感しは頗る稀にしか起こされない。

人間は幾萬里のかなたにある星の世界について相應の知識を有つてゐるが、ごく手近かの自分の身體に起る熱は、肉體的にも精神的にも、未だ解釋の緒にだについてゐない。大方吾々の刻々接觸してゐる人生、(それを吾れと離れて別の世界と觀ずるは時代後れな考へ方であらうが)ほど理解し難いものはないであらう。思ふに人生は人生そのものを歩み辿りつつ、やうやく片鱗を手探りし得るものであらう。或は人生を行きつくした瞬間、辿り果てた刹那に、初めていさゝか感知されるものかも知れない。しかし、あまり遲くならないうちに、人生の幾分を髣髴せしめるものは慥に文藝である、文藝以外の他に何ものがあるとしも思へない。

四

文藝、殊に近代文藝、の特長として無解決の問題提供といふ一事がある。イプセンは問題に答ふるに問題を以てしたと云はれてゐる。際限なく問題は提供せられ、人はあてどなく只問題に吸つけられて前へ前へと手さぐり進むが、どこまで行つても果てしはない。もう人は呆氣にとられ、疲勞し果てた有樣である。その意味に於て文藝は禁制の知惠の木の實でもあつた。人は之を食つて人生の知識を得た。そしてその知識そのものが親み悲み恨み痛みの源泉となつたかの觀がある

しかし一旦とり食つた木の實は再び吐きだすわけには行かない。

しかし之は進化の一徑路として、面白くないが致方ない現

象であらう。そして此徑路は決して迷宮ではない。明白な一路が新しい天地へ導くべくかすかながらも通よつてゐる。それは新しい價値觀念から生れる新しい行爲標準を豫想する。新しい人生觀から出發すると新しい心臓の鼓動を指示する時代の反映した一小現象のために、根本の力を忘却し又否定してはならない。

淺薄に事を考察する人は文藝と普通いふ教育との事ごとに相反對することを憂へる。教育が服從を教へる時、文藝は自我の自由を主張する。學校が克己を說く時、文藝は天眞流露不羈奔放を教へる。教師が秩序と形式の必要を高調する時、文學者は形式打破偶像破壞を主張する。さる小學校に火災の起つた時、校長は御眞影を守るに專心したが爲め、全部の兒童を救出すことができず、二三の憐れな犧牲者を出した此時教育界は比較的校長を以て忠君の志の洵に厚いことを稱讃したが、文學界は失はれた兒童の取かへしのつかぬ事を悲み、御眞影の再下附を願つてもそれはさうした陛下のお叱りを受ける事件ではあるまいと考へた。

か樣な皮相な文藝對教育の衝突觀が現文相をして學校劇禁止といふ全く世界の手前お話しにならぬ時代錯誤を敢てせしめたのである。勿論政治の當局にあるものは秩序を守るを主とし、從て舊を墨守するに傾くのは止むを得ないことで、そこに出版物檢閲制度のやうな制度も幾分止むを得ない結果と見なければならない。しかし教育は時代と共に推移し、新時代に適應してこそ初めて教育であることに氣づかなければならない。時代を見るの明なく、之と共に進み、之れに應じて善處するの力なきものは當局者たるの資格はない。そして教育の說くところも、文藝の深く穿ち、廣く見、高く察した結果による德目でなくては畢竟效果はない。よしや小學中學の兒童でも彼等をして充分得心せしめた上の說敎なり訓練でなくては何の甲斐もない。今日德教の廢れたるは一つに教育者が根本を探ぐるを怖れ疑ひ、表面を以て糊塗せんとするの罪に外ならない。

眞に文藝を理解する青年は決して世に謂ふところの墮落をする氣遣ひはない。勿論彼等とても意志の甚だ薄弱なものもある。絕望のあまりに酒色に己れを忘れんとする考へを起こすこともあり得る。あるひは詐欺、窃盜、萬引、人殺しをしないとは限らない。しかしそのすべての罪を以てしては而かも彼の魂は必ず清淨である。彼は僞善であつたり、殘酷であつたり、卑劣であつたりあり得ない、若し彼が眞に人を知り人の心の深さに觸れてゐたならば、彼は彼れのすべての過失と罪科とを以てしてなほ多くの教育者文部當局者等よりも永遠に救はれる可能性を有つてゐる。

青年部欄

平和デーに思ふ

日の本女學校第四學年　水田敬子

木の實は運命に反抗することなく死んで行く。

人間は運命に反抗する。けれども同じく死ぬ。

動物にも爭はある、彼等のそれは本能に依つてた〃餌をあさる目的にのみとどまり、瞬間的であり根據がない。我々人間間の爭の樣に永續的でなくしつこひ所がない。何しろ人間と動物の爭ひは根本的に出發點がちがふのである。だが動物以外のすべての世界は沈默の中に自然の與ふる恩惠に生き、そこには憎みもなければ爭ひも無い事と思ふ。しかし一度ふりかへつて神の創り給ふた中で一等美しいと云はれる人間社會をみた時、誰が云つた言葉、

「おう世界よ！　汝は平和を約束する。けれども世は平和を持たぬ」そのとうりである、生れて來た人間に平和を求めなかつた者があらうか。おそらく誰もが同じく求めただらうに眞の平和は今日與へられてゐない。

いづこの町も村も又人の心の中にも平和！　平和！と叫びつゝ、その後には弓矢をとり武裝をこらして戰つてゐる。これはなんと云ふ矛盾だらう。

創造されたまゝのエデンの園には何のわだかまりもなき又はてしのない平和の光にあふれて居た事と思ふ。その同じ血が流れてゐる今の世界が平和に渴えてゐる有樣は何んたる不思議であらう。

たしかに罪惡なるものと平和との間には大きな關係があるのだ、全世界より此のみにいくい罪の姿が完全にかくされるまでは平和のあの柔和な顏を見出す事が出來ないのだ。

善も強い、惡も負けない、兩者はつねにいどみ合ふ、特に惡魔は狡猾な手段に出てすきまなくはびこる。その力は殆んど無限と云つてもさしつかへなからう。

その中に立つ我々は少々の苦痛苦悶をものともせず、勇者となりて平和實現のた

めにあの根強き悪魔と飽まで闘はなければとうてい平和は望み得ないのである。

私の脳にも小さいながら神の力と悪魔の力がたへず戦ふ、平和はない、時々には悪はさながら権威者の如く私に肉迫する苦悶の山絶望の谷へと思ふ存分引ずり廻はして皮肉な笑をたゝへてゐる。

しかし善なる勇者もすて置かない、そこに苦しみが生ずる。

「人の世にあるは戦にあるにあらずや」

しかしそれは貴い目的のもとに聖き真理を土台とした戦であらねばならぬ。つまり戦ふばかりが能ではないのだ、人生奮闘のその中に平安を見出して行く事だ。此の世に平和がないのではない、探し得ないのである、世の人は目前の苦痛より又戦ひより無やみにのがれ快楽をむさぼるべく外側の世界に求める彼等は内側なるもの我を忘れてしまふのである。のがれたいと願ふ人の心に平安を握らずしてどうして平和を得られやう。決して我を忘れて平和を求め得ないのである。

幸ひなるかな平和ならしむる者その人は神の子と称へられん、おゝ平和を来たらす者、作り出す者は如何に幸であらうしかし現在は戦の真最中善と悪、霊と肉が今や火花を散らして戦つてゐる。多くの悲惨な事実を見よ、汗と涙と血にみなぎつた世の中を。

老も若きも男も女もそれ相当の武器をになつてあらんかぎりの力をしぼる有様を。

おゝ見渡す限り世の中に平和の影はさがさうとしても見出し得ない。それは悲しむべき事、實に苦しい事だ、しかし私は絶望しない、一つの希望がある。

私の住む世界今は悪魔の街である。これも愛なる神により何かの目的の為その御計畫の一つとして創られたのである。

神は創られたばかりではなく、今なほ働き給ふのである、神は私共の存在の全責任を帯びて下さる、神は人間の絶大なる援助者なる故にいつかはその偉大なる力をもつて悪魔を宇宙より取りのぞき給ふ事を信ずる。我々の悲しみの涙は綺麗にぬぐはれる時が来る。真の平和は神によつてきづかれる事と信ずる。私は此の一つの望をあたへられて今日の平和の日をよろこびを持つて迎へる。

全國會員倍加運動報告

委員長　松宮しん

會員一人〳〵が祈りを以て、お盡し下さいました結果、舊會員數よりも多く新入會員のお出來になつた支部もあります。別記表によつて、全國支部のお働きになつた結果をごらん下さい。表中新入會員數の書き入れてないのは、會員が無いのではなく、まだ御報告を受取らないためであります。

新入會員數　八百五十七名

倍加の目的を達せし支部

鳥取支部
札幌支部
旭川支部
盛岡支部
高松支部

報告の有りし支部數　五十九
報告未着の支部數　八十四

部會名	支部名	所在地	舊會員數	新會員數	支部長氏名
上州	藤岡支部	群馬縣藤岡町二七三	九		大戸きし子
	高崎支部	高崎市檜物町三七	三〇		串戸きよ子
	前橋支部	前橋市北曲輪町四五	一六	七	堀江敏子
	安中支部	群馬縣安中町	一五		湯淺とみ子
	原市支部	群馬縣原市町一四八	三〇		牛田まつ子

部會	支部名	所在地	舊會員數	新會員數	支部長氏名
部會	伊勢崎支部	群馬縣伊勢崎町	一三		大竹貞司
	沼田支部	群馬縣沼田町	七		山田やす子
	富岡支部	群馬縣七日市町			山田しん子
北陸部會	富山支部	富山市四十物町	一六		星かつ江子
	金澤支部	金澤市飛梅町	三八	一七	中村直子
	福井支部	福井市資永町九六	六二		山田[illegible]華
東京部會	麹町支部	東京市外目白上り屋敷	九〇		川崎正子
	芝支部	芝區白金三光町三四六	四〇	一〇	井澤花子
	赤坂支部	赤坂區青山南町七ノ二	八九	三	山東冬子
	神田支部	東京池袋一六二一神學院内	七〇		落合てる子
	牛込支部	牛込區市ヶ谷田町二ノ二十一	一七	二	松宮しん子
	千駄ヶ谷	東京府千駄ヶ谷七八九	一五		倉知正猪
	志木支部	埼玉縣志木町	一七		三上つれ
相駿部會	横濱支部	横濱市青木町四五九	三〇		二ノ宮わか子
	相州支部	鎌倉八幡町	四〇		清水富貴子
	平塚支部	平塚町本宿	三〇	八	比企清子
	靜岡支部	靜岡市外北安東村五七	三五	一四	川江みわ子
	濱松支部	濱松市元名殘五九	二〇	一五	一瀬てる子
甲信部會	甲府支部	山梨縣甲府市受宮町西五	一五		林とらえ子
	木下支部	長野縣上伊那郡中箕輪村木下	一〇		荻原五百枝
	辰野支部	長野縣上伊那郡辰野村	三〇		矢島たまよ
	松代支部	長野縣松代メソヂスト教會内	八		内海たい子
山陰部	峰山支部	京都府峰山町	四二		藤村や子
	倉吉支部	鳥取縣倉吉町	一五	一〇	濱部信子
	米子支部	鳥取縣日野郡溝口村字宮原	一四	三三	大江さや[illegible]

會	鳥取支部	鳥取市東町	五二	三五	伊塔かう子
九州部會	門司支部	山口縣長府龜甲島本新宅	四〇		鶴原あや子
	小倉支部	小倉市鍛治町四丁目	四〇		片谷千代子
	八幡支部	八幡市鬼ヶ原官舍一號	三五	九	喜多恒子
	若松支部	若松市修多羅大島	三二		辻村波那子
	久留米支部	久留米市梅滿町	二一		渡邊正能子
	福岡支部	福岡市須崎裏町赤門病院內	八〇		荒川千代子
	大牟田支部	福岡縣大牟田市不知火町メソヂスト教會	三九		河野せい子
	佐世保支部	佐世保市木場川町	六八	四	牧しづ子
	大分支部	大分市南新地ロイス教會	三五		中野全子
	熊本支部	熊本市三年坂四メソヂスト教會	四六		川瀬たみ子
	鹿兒島支部	鹿兒島市東千石町九八	三〇	一〇	村田千代野子
	別府支部	大分縣別府町秋葉通八丁目	三三		米村千鶴子
	唐津支部	佐賀縣唐津町埋門小路	二〇		堅山すが子
臺灣部會	臺北支部	臺灣臺北古亭街六三番戶	一七		金平千代子
	臺中支部	臺灣臺中市高砂町	一〇		若宮ユカコ
	臺南支部	臺灣臺南大宮町四丁目九七	八五		庄司梅野子
滿洲部會	大連支部	滿洲大連市伊勢町七九	一三	八	飯田いせい
	奉天支部	滿洲奉天八幡町川本キリスト教會內	三七		中屋あい
	撫順支部	滿洲撫順敷島町三ノ一	三〇		岡村伊保子
	旅順支部	滿洲[illegible]旅順赤羽町六ノ一〇	二九		尾花梅代
	鐵嶺支部	滿洲鐵嶺北五條通末廣方			小副川花子
	長春支部	滿洲長春錦月町滿鐵社宅			伊奈八重子
	鞍山支部	滿洲鞍山市上台町	三五		足立てる子
	遼陽支部	滿洲遼陽修家大街	二五		岡田うた子
	安東支部	滿洲安東縣六道溝宮島	三六	九	條顯
	上海支部	上海北四川路麥拏里二、二號	四六	七	和田やす子
朝	平壤支部	朝鮮平壤南山町一番地朝鮮銀行社宅	三四	二	中山ほの子

鮮部會	京城支部	朝鮮京城阜洞淑明女學校	六四	二五	瀧澤館惠子
	仁川支部	朝鮮仁川寺町三十六	三〇	二	芝しと子
	大邱支部	朝鮮大邱府南旭町一二	二六		尾石樂之子
	釜山支部	朝鮮釜山辨天町一丁目	七五	二七	藤澤とら子
	鎭南浦支部	朝鮮鎭南浦月見臺	四三	二五	川本シノア
	大田支部	朝鮮大田鐵道寄宿舍			渡邊清子
外人部會	在日本西洋人婦人會	東京市芝區功運町			ミセスヒアリン
	東京支部	東京大森青年會アパートメント	一五		ミセスパメリン
	橫濱支部	四七			ミセスグリフイン
北海道部會	小樽支部	小樽市富岡町三ノ卌	三四	二五	岡田保茂子
	札幌支部	札幌市北大通西六丁目九	三〇	三〇	辻秀子
	留萠支部	天鹽國留萠町瀨越通	二〇	一三	山田乙女子
	旭川支部	旭川市五條通十二丁目	三〇	三〇	佐野文子
	野付牛支部	北見國野付牛町北三條六丁目	二二		坂野こと子
	帶廣支部	十勝國帶廣町東一條九ノ五聖公會	二五		臼田梅子
	瀧川支部	石狩國瀧川町	二三		山田喜代子
	室蘭支部	室蘭市常盤町一〇〇	三五	八	小岸クラ
	岩見澤支部	岩見澤町六條西十五丁目ノ二	二二		鵜崎ヨシ
	名寄支部	天鹽國名寄町	一六		小北要子
東北部會	弘前支部	弘前市相良町一	三二	三	高谷とく子
	盛岡支部	盛岡市中丸三五	一九	一五	佐藤たつ子
	仙臺支部	仙臺市二十人町九八	一九	九	北野寅代子
	宇都宮支部	栃木縣宇都宮市二荒町七	一六	六	ミセスフライ
	土浦支部	茨城縣土浦町鷹匠町	一三		近藤民子
	水戸支部	茨城縣水戸市上天王町	一八	一〇	ミスミヤープレス
	秋田支部	秋田市西土手龜出町	四〇	六	早川かい子
	青森支部	青森市古川町保育院內	二〇		城戸ちよ子
兵	神戸支部	神戸市中山手通七番町一一四	三〇	二〇	渡邊常子

庫部會	明石支部	兵庫縣明石郡西須磨町	三二		於濃部迪子
	洲本支部	兵庫縣津名郡洲本町	二三	一五	附木とき子
	由良支部	兵庫縣淡路國由良町十軒屋	一七		不瀬なほ子
	加古川支部	兵庫縣加古川	一〇	六	中村米子
	篠山支部	兵庫縣多紀郡篠山町西新町	三〇		鈴木たい子
四國部會	高松支部	香川縣高松市七番町	三〇	三〇	内藤てる子
	坂出支部	香川縣坂出町	三二		岩瀬ゆき子
	丸龜支部	香川縣綾歌郡宇多町新町	三七	九	原五百子
	今治支部	伊豫今治市金星町	二二	一〇	市村佐治惠子
	松山支部	伊豫松山市北歩行町	二〇	一三	山路順子
	徳島支部	徳島縣徳島市助任裏町四三	三〇	一五	岩瀬壽子
	富岡支部	徳島縣富岡町内町	一六		岩谷三好子
	美馬支部	徳島縣美馬郡脇町	一七		外山忠子
高知部會	高知支部	高知縣高知市大川筋	一〇〇	六七	砂川里美子
	藝西支部	高知縣安藝郡馬ノ上村	三〇	二	岡村光尾子
	須崎支部	高知縣須崎町			今橋千鶴子
山陽部會	廣島支部	廣島市白島町九五	五五	三〇	菱沼小夏
	岡山支部	岡山縣岡山市門田屋敷一一九五	八八	六	ミセス オールツ
	笠岡支部	岡山縣笠岡町佐藤	三〇		杉浦信子
	福山支部	廣島縣福山市外西文下	三二	八	ミス カルギー
	尾ノ道支部	備後尾ノ道長江町三丁目	三〇		柳田岸子
	吳支部	吳市下山手町二五	一七	三三	十時菊子
	山口支部	山口市字伊勢門前	一六	二	菱川豊子
	長府支部	山口縣長府市字土肥山	一四		末永さご子
	下ノ關支部	下ノ關市田中町鈴木社宅	三五		西岡みか子
	倉敷支部	岡山縣都窪郡倉敷町川西町	四〇	一〇	木村たか子
	高梁支部	岡山縣上房郡高梁字伊賀町	三七		高野りゑ子
	徳山支部	山口縣徳山町横馬場	四五		工藤すみ子
京	名古屋支部	名古屋市東區富士塚町三ノ二	一二八		奥澤とき子
	京都支部	京都市上京區室町今出川上ル	八九		海老名みや子

都部會	宮津支部	京都府下宮津町島崎	二三		小林つる江
	大津支部	滋賀縣大津市外膳所町	四二		矢部はる野
	八幡支部	滋賀縣八幡町	三九	二	吉田靜子
	津支部	三重縣津市綿内町三二四	三〇		平尾まつ子
	四日市支部	三重縣四日市濱田町新丙谷町	四三	六	永田有子
	岐阜支部	岐阜市杉山町二十三	二八		岩田とく子
大阪部會	大阪支部	大阪中の島六ノ六	二〇〇	三〇	林歌子
	堺支部	堺市市町東一丁	三九	二五	大枝かれ子
	奈良支部	奈良縣奈良市水門町四八	一九	二三	長尾糸子
	郡山支部	奈良縣郡山町北郡山	二三	七	吉田しか子
	和歌山支部	和歌山市駕町三二港	三七		ミス ランソム
青年部	丸龜青年部	香川縣丸龜市通町集本方	一四		高木貞子
	東京中央青年部	東京市外目白上り屋敷			川崎貞子
	共立女子神學校	横濱市山手町二〇九共立女學校	九	八	萬澤恒子
	聖經女子神學校	麻布區鳥居坂英和學校			岡合せ中
	大阪青年部	大阪市南區鰻谷仲町八一	一五		谷田愛子
	金澤青年部	金澤市尻垂坂町一四			長澤君子
	普連土女學校	芝區三田功運町フレンド學女校	一七〇		岡井梅子
	北陸女學校	金澤市御小人町七	三		瀬ノ尾トキコ
	同志社女學校	京都市上京區同志社女學校			飯塚喜多子
	神戸女學院	神戸女學院	一七〇	三〇	山口達子
	水戸青年部	水戸市天王寺町八八八青友社	一四	二	大内光子
	姫路青年部	姫路市下寺町日本女子校	三〇		弘中知惠子
	カートメル女塾	甲府市百石町カートメル女塾	一九		大久保敏子
	德島青年部	德島市助任町八八	二五		高間君子
	香港支部	英領香港日本基督教會氣付婦人矯風會支部	三		平岡かつ子
	シンガポール支部	S. Adis Bd. Singapore			藤森きみ子
	米國ヤキマ支部	602. S. O First St. Yakima, U.S.A.	一〇		井出豊子

我等の部會

東京部會

十一月十二日午前十時から四時迄、新入會者の歡迎を兼ねて秋季總會を開きました。出席者四十名餘。午前は守屋女史の臺灣のみやげ話や歡迎會。役員選擧の結果、部會長井深花子、書記松宮しん子、會計竹上正子、風俗部長島田信子、廢酒部長守屋東、財務部長石田立子、家庭部長松宮しん子の諸氏に決定。

決議事項

一、東京部會本年度の負擔額金千圓の中、半額を十二月中に、他の半額を來年三月中に拂込むこと。

一、年額一圓を納むる男女の贊助會員を募ること。（百名の見當）

一、部會の義務金は一人一年十二錢。

一、正月五日例年の如く在京の海外留學生招待會を開く。

上州部會

十月廿七日安中教會堂にて開催。部會各支部より多數出席。午前中田部會長の司會にて報告、議事（小泉氏議長）午後は片桐牧師、小崎會頭、の獎勵。約百名出席。夜は公開演說會にて、同敎會牧師、柏木氏の司會、小崎會頭「我等如何にして生くべきか」宮川氏「文明淪落の幻影」にて話さる。八十餘名出席。

臺灣部會

守屋姉の本誌「このごろ（臺灣紀行）」參照。

兵庫部會に關する報告

部會長　渡邊　常

洲本支部應援

十月十九日　神戸支部より城渡邊兩人洲本を應援す

當日は雨天なりしも午前九時半兵庫出帆洲本に着せしは午後二時頃　稻本支部長、三宅・深田等諸姉出向へられ三宅姉宅に投ず夕方より雨降ろ、講演會、會場は武德殿、にて四百人程の來會者、稻本姉司會城姉は「人形より人間へ」私は「女性と國力復興」と題して語りましたが實に盛んなる集會。洲本町婦人會員や高等女學校の敎諭、上敎寄宿生及鐘紡の女工事務員等出席、當夜拾名程の新入會員を與へられ感謝に滿ちて散會致しました。

同二十日　城姉は歸神せられしも私は尙一日三宅姉宅に居殘る事となり午後一時より洲本高等女學校にて補習生の爲め話をなし次いで鐘紡支店長中村氏宅を訪づれ同夜又三宅姉宅に催されし新入會員歡迎會にて話をなし互に親しく懇談致しました。今回の此働に關しては稻本支部長初め三宅姉等多大の貢獻をいたされ、實に〳〵嬉しく感じました。

同二十一日　午前十一時洲本出帆午後歸神いたしました。

加古川支部應援

十月廿七日　今朝十時八分の列車にて加古川支部矯風會の例會に出席話をなす。會場は漸築の宮田姉御宅にて來會者は拾名計なりしも高砂より生根姉來られ四名の同地新入會員を紹介あり且つ町に於て生根姉及有志婦人が洋服の研究所を設け活動なし居らるる模樣に附きて語らる。

十一月廿六日午前十時八分發列車で高砂に向ふ途次加古川にて下車し會員廣瀨姉宅を訪づれ、午後一時支部長中村床姉と同車して高砂町生根姉、坂田姉等有志の經營になる洋服研究所にて初めての同地矯風會を催す中村姉司會、私はテモテ後書二章二十節以下廿六迄を引照して人格の貴ぶべきものなる事及び矯風會の目的及事業につきて說明す、此地非信者は少數且生根姉の御宅は酒造家なるに同姉は非常なる決心を以て其廢業を御主人に迫り、婦人の副業として同町婦人の爲め率先して先きに此洋服研究所を起されしとの事、アール女學校出身の方にて、目下お嬢子も同校に在學中なるが過日受洗せられ母君にも益々信仰に進むやう申進されしと、又同姉の片手とも云ふべき坂田姉は古き信者の御宅なるよしにて前途に大なる希望を以て研究所の爲め盡くされつゝあり。加古川支部にかく有力なる會員を高砂町より得しは實に感謝です、將來同地にも矯風會支部が生るゝ事と感謝に堪へません。

室蘭支部から

秋冷の候となりました。皆樣いよ〳〵御元氣で御活躍の御事とはるかにお察し申上げます。さて、今の夏久布白姉御來遊の節は一方ならぬ御力ぞへをたまはり御かげ樣で當地も一同より非常に働く事が出來るやうになりました事を深く御禮申上ます。

その折御願ひ申上て催ほしました集會及び講演會の模樣延引乍ら左の通り御報申上ます。

大正十三年八月六日午後一時御着により室蘭婦人會御出むかへ致し創成館に御案内申上げ午後二時直ちに内部的集會を催しました。

内部的集會

六日午後二時、　日本基督教會々堂に於て

司會　小岸支部長

紹介　湯門副支部長

市民としての基督者　久布白姉

午後四時散會。

六日午後七時半　中學校講堂に於て

室蘭婦人會

婦人矯風會　共催

一般的大講演會

司會者　中村市長夫人

御紹介　小岸支部長

現代婦人の責任　久布白落實女史

文化と婦人　農大　藤原學士

當日聽衆四百餘名豫期以上の盛會であり豫想以上の大成功をおさめ得た事を一同重れて感謝致してをります。

同七日湯門副支部長御案内で午前八時半より市内八幡神社に參り、なほ遊廓を御案内致し同十時から公會堂に歡迎會を開き午後一時久布白先生岩見澤に出立なされました。

札幌に開催されました、北海道部會創立のため全道各支部より代員出席當支部よりも三名出席いたしました。

以前よりの御依托にかゝる「五錢袋」九月九、十の兩日を期し總動員で戸別訪問を致し以前の成績の好さに力を得その後引きつゞき績をみては、致す事にしてをります。毎月一回文化講演會開催の事に決議致しその第一回を九月十二日試みました。

九月十二日午後七時半　於、日本基督教會堂

司會者　小岸支部長

講師　商學士　近藤直氏

家庭生活についての諸問題　岡崎牧師

感情の生活に及ぼす力

當夜聽衆八十餘名これまた思はざる好成績に一同本當に力強く思ひました。右のやうに近々會のモットウをかゝげてはたらきました民遊廓方面の組合の連中が多數支廳に押しかけて「遊興税を納めてゐるのに云々」と非常にやかましく申してゐるやうでございます。それ程に世人に注目されその度毎に多大の影響を市民にあたへつゝあるかと思ひますと心強く思はずにゐられませぬ。なほ文化講演會は毎月開催の筈ですし。先生との御約束の通りよき會員を増しふやすのについて會員一同より一層努力致しませう。

まことに延引乍ら右御報告まで

終りにのぞみ先生はじめ皆樣の御上に御幸福と御健康と、御力と御めぐみをひたすら一同祈り上げます。

當地役員

支部長　小岸久良

副支部長　湯門ちえ

書記　橋引明子

會計　原靜

事業部長　堀居市子

委員

教育部　岡崎たま

文章部　近藤直子

會計　千葉琴子

池田こわい

おたより

新潟支部の設立

ガントレット恒子

永い間矢嶋先生が支部設置希望地として計畫して居られた新潟市に十月廿五日に小さい割に強固な新支部が新に設立せられました、私は本部を代表し、松宮新子氏は東京部會を代表して、其發會式に臨むの光榮を擔ひました。

支部長は小出夫人ちか子氏で矢嶋先生の薫陶の許に女子學院に學んだ方で、其御良人は元裁判官であつて今は辯護士として、同市に廣く知られた方であるばかりでなく、禁酒會の有力な戰士でおらせられます、此支部長と共に主義に立つ強い御婦人方の十數名が、困難な此土地に支部を作られた事は非常な勇氣と忍耐を要せられた事であります。

發會式は同市の立派な高等女學校の講堂で一千名以上の來會者を以て擧げられました。市長代理、高等女學校々長代理の鄭重な祝詞がありました。

此日は折惡しく縣廳に勤儉奬勵に關して重要な會議があつたので縣や市の方々の御出席が少なかつた樣に御見受けしましたが二三の會から牧師さん方の御出席もあり、盛大な集りであつて、新しい支部の發達を祈る心に充分の感謝の喜びを與へました。

キリストの旗下に立つ者としては、男女の差別なく、盡すべき責任を有つ此世を潔め神の國となす此事業が、此新潟の町に生聲を擧げた以上、どんな困難とも闘つてメキ／＼と成長發達し、其使命を果さん事を祈つて止まないのであります。

尙此支部を生み出すに大に力を添へて下さつた林歌子氏、城のぶ子氏に感謝を忘れてはなりません。

濱松にて

松宮しん子

去る十九日夜行で東京出發、主婦の友の講演と料理實習の講習會のために濱松へまゐりました。大米屋旅館といふ土地一流の旅館へ宿が定められてゐて着した翌朝第一に尋ねて下さいましたのは、濱松支部の支部長一瀬さんと加茂伊藤の兩夫人でした。松宮さんがお出になるときいて私共婦風會員はジッとして居られず一生懸命にこの數日、宣傳に盡しました、お出を幸ひこの濱松の婦風會のためにもなにか盡していたゞきたいとの事、それで私はこう答へました。どこへいつても何んの集會にのぞんでも私共は自分の主張と主義に向つて突進するのですからたとへ主婦の友の催しではあるが料理のことにも講演のことにも婦風會の精神を充分にふきこむつもりですから格別に婦風としてのお催しをいたゞかなくとも今度のこの集會に皆さんが力を盡して下されば結構と申上ました。けれども一度は私共の極く内輪のものだけでも集まりたいとの事で二十一日の夜美普教會（伊藤夫人の御良人牧師の教會）で小集會を開き田上、一瀬、加茂、伊藤の諸夫人つまりこゝの婦風會の幹部達その他の親しい集りができました。十二月五日がこの濱松支部の誕生一週年にあたるのでなにか記念の會を開きたいが本部からどなたか御出を願はれまゐかとの事その他支部發展の方法や宣傳部をもうける事などいろいろ御懇談申しまして打とけたしかも靈にみたされた集會でした、二十日から三日間の料理實習のことにも廢酒問題や食料問題にも渡り二十二日の講演會には「男女道德觀念の均等」といふ演題にて婦人の自覺と同性に對する同情引いて濱松市廓清の問題に及び約一時間あまり話しました、三日間は、隨分の努力でしたが又私のうしろでは、濱松支部の親愛する姉妹方の祈りのある事を知つて心深く感じました。二十二日夜それからすぐに神戸へまゐり姉の家につきこゝに一兩日間滯在して上京いたします。（十一月廿三日）

臺北より

書記 堤みね子

二三年來の宿望は達せられて守屋樣の御來臺の報を受けました時は一同は歡喜致しました。此離れ島に遠來の客を迎へますもの、熱き祈りを以て準備に取かゝりました。

大切なる時に丹下先生が御病床の人となら

れましたが、先生の深い御祈りは反つて私共の働きの泉となりました事に感謝で御座いました。

基隆へは小谷姉と私とがお迎へに参りました。早速新聞記者の訪問を受けられ、御活動の端緒が開かれました。

臺北では支部長を始め、諸姉達が待ち構へて居られました。・

北は基隆より、新竹、臺中、嘉義、虎尾、臺南、高雄、屏東と、南の端まで前後三十回の御講演で實に大車輪の働きでありました。

尚臺北では鐵道ホテルに於て第一回の大講演會を開催致しましたが、近來稀の大集會で室外より聽いて居る人も多數でした。

金平支部長の司會の下に靜肅に會は進行致しました。三井姉の紹介、會の内容報告其他凡べてが婦人の手によりてなされたのは、之が嚆矢であります。

そして講演者が守屋先生であの熱誠なる雄辯と美しき聲量とは知らず識らずの内に引き附けられ、えて反抗し易い酒の問題にもいつしか共鳴して居る形でした。

當夜は午後十時に終りましたが、直に遊說會の路傍演說に向はれました。聽衆山をなして居ました。場所は臺北檢番所前であつた事は御記憶下さい。始めは三味線の音がピンピンと響いて居ましたが、後には顏が見えて居ました。こゝに於ても力ある講演でありました一同は實に眞面目に聽いて居ました。そして破れん計りの拍手の中に降壇されました。御供致しました私共も實に引締りた感じました。

中南部地方に於ても凡べてがかうした惠まれた會であつて、多くの御土産物を受けました事を皆々感謝致して居ます。第二回の講演は臺日新聞社の樓上で開催致しましたが、開會時迄にて滿員となり、多くの入場者を御斷り致しましたのは返す〳〵も殘念で御座いました。聽衆實に靜肅でありました。そして異性である男子に覺醒を與へられた事は事實で御座います。

其他五女學校、小學校、看護婦、本島人青年會、教會等各方面に於て御講演を御願ひ致しました。申分なき程御使ひ申しました。御健康を氣遣つて居ましたが御無事御歸京の報に接し感謝致しました。

全く此度は基督教婦人矯風會なるものゝ眞價を深く刻み込まれました。ほんとによく開拓して下さいました。

私共會員も力強い或物を投ぜられました。最後に附加致します。見切品とか老木とかの御言葉が如何にも殘念でたまらないからどうしても煙草は止めた、酒は止めたと力んで居る人が御座います。人間の心理狀態は不思議なもので御座います。

尚御繁忙中に拘らず萬事御引受け下されて守屋様を御送り下さいました本部の皆様及ホームの御子様方に厚く御禮申上ます。十一月廿日

ある一日

林歌子

悲痛の手紙　十一月廿七日の中央公會堂に開かれし大阪市聯合婦人會より歸れば、机上に二通の書留郵便、和歌山縣金屋局區内小椋茂代子氏より（婦人矯風會員）手紙の要旨は

「先生湯淺に遊廓が出來るさうでございます私はその起工式の事が新聞に出て居たので初めて知りました。私は悲しうございます私はどうすればいゝのか、只はがみするのみでございます」

遊廓の起工式、これは何事なるか、和歌山縣は新宮と外一ヶ所に遊廓はあるも、全體から申せば殆んど廢娼縣なるを、何かの間違なるかそも如何にと、遊廓と云ふ言葉には、神經過敏である私は、直に筆執りて、和歌山 石川牧師氣付として、和歌山支部へ「アスユク」の電報をうちて

危篤の病人を氣遣ふやうな心持ちで、午前中の何事も打棄てゝ朝九時和歌山へ着して河野氏宅へ着きて、それは遊廓にあらで、料理屋を一つの場所へ纒めたものと聞きて、先々安心、石川牧師も來られて、切角來たからには縣廳へ行きて、警察部長にお目に懸り、知事は議事堂に中學校以上の校長會議に御臨席中とて導かれて

[illegible]の校長會議縣に臨み居らるゝ知事閣下にお目に懸り、本縣にては、時代錯誤の遊廓は決して許可せぬとの事を確め、中學程度以上の校長樣方に對して、目下の我國の現狀克己純潔の二大方針に導くより外なしと信ずる要點を御願ひ致して歸り、遊廓と云ふ言葉に神經過敏となつて居る私の一日の行程はこんな事を致しました

第二回禁酒敎育講習會

記者

未成年者飮酒禁止法の徹底運動として少年禁酒軍は大正十一年十月に第一回の講習會を開き、教育者、警察官、社會事業者間に、禁酒の教育運動をなした後、第二回は震災の爲に中止のやむなきに至つた、が、本年十一月十四日――十六日の三日間、日本學生排酒同盟（第一回の講演會が生み出したる會也）と少年禁酒軍と聯合して第二回を開く事が出來た。

力を出さう、金を出さう、勞働は我領分也といふやうに、實によく皆働いた、そして三日間の講習會は最も有意義のものとなつた。

三府十二縣から聽講生は見えた、職業別にすれば、

官公吏、商、學生、神官僧侶、農、警官、教師、其他等であつて、其數は三百二十名に達した、警視廳は七十名の警官を派遣して講習を受けさせられた、遠く新潟、岡山等よりも來會された。

講師は、

熊谷醫學博士、三川谷醫學博士、杉田醫學博士、佐藤工學博士、渡邊旭海師、二荒伯爵であつた。

片山醫學博士は三日間とも來會されて我等の力となつて下さつた、實に博士の如く其學に忠、國を思ふに篤なる學者はないと思ふ。

第一日の初めに二分間演說を開いた。十數餘名の人々が語られた、村長あり、警官あり記者あり、軍人あり、僧侶あり、禁酒會員あり、商人あり、實に言はんとする處を僅の時に述べこなし其焔の如き言辭には大に勵まされた、藤田少將の如きは第一回の時にも熱心なる聽講者の一人であつた、今回も出席された、斯かる人々も多數あつた事を喜ぶ。

第二日の夜は學生排酒聯盟の公會發會式であつた、遠山滿翁の如き、昔て講壇にたつて語られしことなしといふ翁も學生の眞摯なる此運動に共鳴されて一再述べられしなど感謝の至りであつた。京大、東北大學等よりも有志來會されて一層此運動の力を强からしめた我國の中堅の中堅たる學生間に此進化せる排酒運動の組織だつて起れる事は國家の爲此上しなきよろこびである。

講師の講演は、皆此運動の根本に觸るるものであつて來會者に大なる滿足を與へた、今後排酒運動者にとつて一つの力である。

佐藤博士の科學と禁酒の如きは、ぜひとも諸姉の一讀さるべきものである、最近一本として諸姉の前に出づる時、必ず讀了されん事を今よりおすゝめする。

此講習會の全體に亘つては、會報として近日出版する事になつて今其準備中である、有益な記事、また潑溂たる辭句みなぎつて居る事と思ふ。學生は其編輯の任にあたつて熱心に働いて居る。

學生排酒聯盟に加盟して居る專門學校は今二十四校ある、東京の各專門學校には今盛に運動が起つて、發會を宣されてゆく、すでに十一月以來、立教大學、日本大學は加盟した。將來のある有志の學生の間に、宗教の如何を問はず、全く排酒の一項に一致して此大運動が起つて來た事は有難い事である。

少年禁酒軍で指導されたものが先に進んで入るべき處なしと思ふたのはすでに過去である。此學生等の爲に少年少女はまた勵まされて幼なき時よりよき模範にならひ幸福を得る時機に到達した。

第二回禁酒教育講習會を終了して感謝に滿ち一言御報告す、終りに、よく働かれて其効を擧げられた學生の諸君、並に同勞者に感謝を捧ぐ。

活　動

廣島支部

十月十三日(月曜)午後七時半より袋町小學校講堂にて菱沼姉司會の下に婦風大講演會を開く、

講師として大阪より禁酒會々長林龍太郎先生と林歌子先生をお招きし、林先生よりは「國難に處するの覺悟」林歌子先生よりは「國を愛するの道」と題していづれも今日の日本國民に最も適切で有益な實際感にせまるやうな御講演であつた。來會者四百餘名　(通信書記憶曽澄子)

呉支部

七月一日　全國の會員と共に此日を無酒デーたらしむべく、前日本部より送り來れる宣傳ビラをたづさへ大雨をおかして十時會長は少年部長ケンプリッチ夫人を訪問して中小の各學校及市役所等を訪問し廢酒の宣傳をなせり。

七月十日　例會開催。料理講習會の報告、背野姉の財務部報告、中塩夫人の會計報告終りて會長一場の奬勵をなす。後全國常置員會に於て決議せられし決議文の朗讀をなし、則末婦人裕の祈禱を以て三時散會す、來會者十名。

八月二十九日　臨時常置員會開催。關西部會の決議に基き部會に屬する會員と共に震災記念の克己を守り、一般市民にも此日を記念なさしむべく宣傳ビラ一萬枚を印刷して各教會日曜學校を通じ又新聞等にもはさみ市民に配布せり。

九月十一日　例會開催。ケンプリッチ夫人の夏期中輕井澤に於ける諸集會の報告あり。十時會長は關西部會の夏期修養會に臨める報告をなし、相次ぎて震災記念日に於て克己献金として集まりしもの實に八拾圓餘り有りしを以て一般市民に禁酒の宣傳をなすべく林歌子女史林龍太郎氏を招聘することに決し則末姉の祈禱を以て散會す、來會者十名。

九月十五日、當支部の會員たる木村少佐夫人芳子姉永眠せらる依て當支部より花輪一對を寄贈し十時會長と廣岡姉會を代表して十六日會葬せられたり。

九月二十八日　米國國際婦女保護團幹事たるグレー女史と宮川靜枝姉來呉せらる。呉會館に於て市の社會課主催にてグレー女史の有益なる講演あり廣島女學校の西村教諭通譯の勞を取らる。

十月四日　軍人ホームに於て本間俊平氏の講演會をなせり。氏の熱心なる信仰生活の實驗談は一時間半に亘りてさながら泉の湧き出づるが如くかわける人の心に新なる力と喜を與へらる。

十月十四日　いよ〳〵待ちに待ちたる林歌子女史林龍太郎氏を迎へしを以て午後一時半ホームに於て會員及有志者の爲めに兩林氏の講演により特別集會をなせり。二氏の熱心にして明細なる講演は聽く者に深刻なる感動を與へ多數の入會希望者を得たり。夜は七時半より五番町小學校の講堂に於て一般市民の爲に兩林氏の大講演會は開らかれぬ。林龍太郎氏「國難と復興に就て」今は國民の眞に立つべきの秋にして國土の擴張と人口の増加に比して食料の不足を訴へ更に海外貿易の不振となへ現に我國家には十八億六千萬圓の負債あり加ふるに昨年九月の大震災に續いて起る移民問題に及び此數重なる國難に際して我等は如何になすべきか。一、身體を健全にせよ。二、海外に發展すべく努力せよ。三、勤勉なれ。四、節約せよ。五、科學的研究により能率を上げよ。六、禁酒禁煙。七、目前の短き喜樂より永遠の喜樂を求むべく解決せらるゝや拍手喝采の後に來會者一同により國の危難を忘るゝはの歌は歌はれ、満堂水を打ちたる靜肅に返るや林女史壇上に現れて「國を愛するの道」と題し、一、婦人も一般の學識を備へて家庭に起る諸般の改善をはかるは勿論の事男子と共に社會萬般の改善進歩に貢獻すること。二、公娼問題に付。三、自己を改造して國家の爲に盡すべき爲には各自が國家を負ひて立つ覺悟無かるべからざることを熱誠こめて述べらるゝや満堂の人心極度に感動して醉へるが如し斯くて十時半散會す、來會者七百名餘。

十月廿日　會員募集デーとして一日を會に捧ぐべく本部よりの通知により常置員の人々は午後一時ホームに參集し新たに増加へられたる多數の會員の爲に感謝の祈禱會をなしなほ當會員の使命と協力的活動に付神の御意を

祈りて三時半散せす。

十一月五日　午後一時半ホームに於て十時会長司会の下に新會員三十五名の歓迎會並にケンアリッチ夫人の送別会をなせり。十時支部長歓迎の辞を述べられ、矯風会会則に付ての説明あり次にケンアリッチ夫人の送別會は則末姉司會をなし三百九十一の讃美歌を以て初まりヨシヤ一ノ八、九をよみ祈祷の後會を代表して和田姉の送別の辭十時會長の感謝の辭ありケレアリッチ夫人の答辭風間姉の終の祈祷あつて閉会し直に親睦会に移り茶菓の饗應あり自己紹介等あり十分の歓をつくし四時散会す來会者四十三名。

徳山支部（山口縣）

去る十月十日（金曜日）城先生を下關よりの御歸途をわづらはしまして日本基督教会堂に於て午後七時半より「社会平和の眞義」の題の許に御講演を願ひ當地にてはまれに見る盛会にて聴衆に非常なる感動を與へられました。其場にて五名の新会員を迎へました。（小鷹狩秋子）

洲本支部

八月十一日午後八時より當支部の四才の誕生記念集会を自由メソヂスト教會に於て開きました。

支部長は四年の歩みを顧みて語られました「我キリスト教婦人矯風會洲本支部は一島國の婦人の眠りを覺すべく大正九年八月九日孤々の聲を擧げました。其産婆役にフリーメソヂスト教会婦人会河邉柳子及林歌子兩先生の努の少なからぬ事を覺えて感謝を致します。生れは生れましたが丁度無理解な母親に育てらるゝ子供の如く、誠に不完全な生ひ立ちで御座いました、併し乍ら始の頃は新しきを好みて入会なさる方々を多く數へ、更に角進んで参りましたが、いよいよ矯風会の主義、理想、實戰と分つて参りますと、其人達はぼつぼつと退會して行つてしまいまして、幹部の中にさへ大動揺を來し、一時は絶望かとさへ見えましたが、神様の御憐みは消え去る事なく見えざる御手を以て私達を守り導き忍ばせ終に望を與へて下さいまして今日に至らして下さいました事は只々感謝の外ありません。其困難と不理解の中に會費の外に活動資金を與へらるゝ事六百圓、五錢袋を集むる事二千餘皆それぞれ主義宣傳實行の爲に使用致しました。云々

右の御話により一同新らしくはげまされ近く開き度く願へる講演会の相談もあり樂しく散会いたしました。

講演会

十月十九日　渡邊常子、城信子の兩先生を御迎へ申し講演会開催す。

会場　武徳殿　司会稲本支部長

一同合唱「國の危難を忘るゝは」（賀川豊彦氏作）聖書朗讀、箴言十四章廿七―三四、石田姉、開會の祈、佐野姉。

講演　渡邊常子先生「女性と國力の復興」の題下に

獨唱　廣井姉。

講演　城信子先生「人形より人間へ」の題下に。

閉會の祈、城信子先生。聴衆五百餘。新入会者十名。

其翌二十日三宅様お宅にて渡邊先生を中心に新入會員の親睦會を開きました、誠に樂しく且つ新会員の結束をかたくする好集會でありました。

濱松支部

十二月六日は創立一週年記念祝賀会を午後二時より伊藤初榮氏司会のもとに日本メソヂスト教会に開く。聖書朗讀河野芙蓉氏、祈祷佐藤よし氏、挨拶田上梅子氏、祝辭、渡邊市長、關口校長、障署長、藤田局長、コーツ博士、廓清会代表。祝辭演說、城のぶ子氏、夜は七時半より同所に川上梅子氏司会のもとに社會問題講演会を開く。聖書朗讀山田國枝氏祈松田ふで子氏、挨拶伊藤初榮氏、神戸婦人同情会長城のぶ子女史御講演下され、非常に有益なる集合を催すことが出來ました。

午前は特に、廢娼請願署名の運動を致し、會員一致協力することが出來ました。

宇都宮支部

十二月六日午後一時半より下野新聞社樓上に講演會開催。眞野女史司会のもとに前代議士田川大吉郎氏「矯風事業と國運の關係」宮川師枝氏「社會意識への婦人の目覺め」の講演あり。會衆知識階級の男女五百餘、瀧田芳子女史を始め會員諸姉の祈りと熱心なる準備により非常に有意義に且つ盛んなる集會なりき。

"Japan has too many cases where drink is encouraged—in the business and political world and even in the military ranks. The indifferent attitude which many people take on this question is very bad. It is the duty of the students as faithful subjects of the Empire to give serious consideration to this vital question which means so much to the nation's welfare."

Dr. Sawayanagi said: "The Japanese people have a tendency to theorize about a problem, even to give mental assent to a proposition or principle, but too often fail to apply the principle in daily life, to put the idea to which they give mental assent into actual operation." He urged a more practical attitude on the part of the students towards this important issue.

Greetings From Abroad. Mr. Shaw brought greetings from the students of America and Europe. He said among other things: The reason for the growth of sentiment against alcohol throughout the world can be summed up in one word—Science, taking that term in its broader meaning as signifying the determination to find out the actual facts, rather than traditions, about the questions of the day, and to solve our social problem by seeking out, and removing as far as possible, their causes.

Mr. Kazutaka Ito, in a very enthusiastic and forceful address, discussed the new demands for sobriety which had resulted from the growing emphasis upon amateur and professional athletics.

"Alcohol and physical efficiency," he said, "do not go together. The two prohibition countries, Finland and the United States, lead in the recent Olympic games, and if Japan wants to hold her own among the nations she must give up sake."

Women's Interest. Miss Moriya mentioned the recent visit to Japan of four Japanese girls who had been raised in America. "They took a keen interest," she said, "in the new Japan Intercollegiate Prohibition League, and the awakening interest of our students in matters of social reform. With their knowledge of the great social gains resulting from prohibition in America, they felt that the organization of the student movement here for this cause was one of the most promising signs they observed during their stay."

Dean Sugiura is president of the League and there is an Executive Committee of four student members. Dean Sugiura presided at the dinner.

Mr. Inouye said the Government has been extending assistance to movements tending to encourage temperance among the people. The younger generation, he said, has been quick to respond to the appeal of their leaders for temperance but that persons of middle age have shown themselves indifferent. Mr. Inouye says the Social Work Bureau is beginning to realize the necessity of working among the adults because such are mostly heads of families whereas the younger generation has no power.

RIKKYO UNIVERSITY STUDENTS FOR A DRY JAPAN

Launch Campaign At First Meeting Of Recently Formed League

The trend of the world, led by Science, is towards abstinence in the use of intoxicants, Mr. Mark Shaw told the members of the Rikkyo University Prohibition League at their first meeting Tuesday afternoon, while the value of prohibition as a means of leadership in athletics was pointed out by Mr. Kazutaka Ito, director of the Tokyo Y.M.C.A., who pointed out that the United States and Finland, two prohibition countries, carried off the premier honors in the recent Olympic Games.

The students prohibition league inaugurated its campaign for a Dry Japan as a public meeting at the university, followed by a dinner for the charter members in the college dining hall.

At the afternoon session, following the reading of the Proclamation, Declaration of Principles and the rules of the society, addresses were given by the following:

Professor Yoshitaro Negishi, Professor of English, Rikkyo University.

Dr. Masataro Sawayanagi, head of the Imperial Education Association and President of the Nihon Gakusei Haishu Remmei.

Mr. Mark R. Shaw, representative of the World Student Federation Against Alcholism.

Mr. Kazutaka Ito, director of the Tokyo Y.M.C.A. and prohibition leader.

Miss Azuma Moriya, secretary of the Nihon Fujin Kyofukwai.

Dr. I. S. Sugiura, Dean of Rikkyo University.

Too Much Encouragement. Professor Negishi said in part:

enthusiasm with which all shades and varieties of prohibition movements are supported by the Government and virtually all social welfare organization in this country," said Mr. Ryozo Inouye, social welfare lecturer attached to the Social Work Bureau of the Department of Home Affairs, in an interview given to a representative of The Japan Advertiser. "The prohibition movement no longer is the monopoly of religious workers because leaders of all social welfare organizations and intelligent people everywhere have begun to manifest their particular interest in the advance of the movement. I travel in all parts of the country and I recognize this manifestation everywhere. I do not hesitate to say now that the prohibition movement is bound to become a tremendous influence in Japan."

Marked Interest Shown. A general meeting of the Kyokadan, an organization of social reform, took place Tuesday and Wednesday at the Social Work Bureau. The meeting was attended by 200 religious, educational and social welfare work leaders. A marked interest in the prohibition question was the dominant feature of the meeting, Mr. Inouye said.

"Virtually all those attending discussed the problem with enthusiasm," said Mr. Inouye. "The Minister of Home Affairs submitted questions asking what is the crying need in the move to ameliorate social conditions. The meeting agrees that suppression of the drink traffic would go far in that direction. The response to the Home Minister will not be given in a form particularly pointing out the necessity of promoting the prohibition movement because such a statement would entail support of many movements calling for the suppression of similar vices. We decided, however, to recommend in general terms the necessity for improving living conditions of the people with particular emphasis on the suppression of liquor drinking.

"When I recently visited Ueda, Nagano prefecture, I met a Buddhist priest who is refusing to officiate at funeral services or memorial services if sake is served. He is urging other Buddhist priests in the district to refuse to officiate likewise. His proposal so far has been rejected but the priests have agreed that they will refrain from drinking themselves on such occasions.

"I find organizations of all kinds for the betterment of the various communities and I also find that most such organizations encourage their members to refrain from drinking."

STUDENTS LAUNCH FIGHT ON LIQUOR

National Anti-Liquor Federation is to Hold Inaugural Ceremony Today.

NOTED SPEAKERS ON LIST

Place is Imperial University Y. M. B. A. Building—Prohibition Reported Gaining

The National Students Anti-Liquor Federation, with Dr. Masataro Sawayanagi, president of the Imperial Education Society as its director, will hold an inaugural ceremony this evening in the auditorium of Imperial University. Y. M. B. A. Hall The Federation is taking advantage of the start of the three days national prohibition campaign the National Temperance League of Japan. The students' organization sponsored by virtually is supported by some of the most religious and educational organizations in Tokyo, and prominent persons.

More than 2,000 students are expected to participate in the ceremony. Mr. Yōju Sugiura, of St. Paul's University, will preside and Mr. Sugeo Masumitsu, of Hosei University, will deliver the opening address. Mr. Yoshio Suga, of Tokyo Imperial University, will make a report on the activities of the organization since it was established a year ago.

Platform To Be Adopted. At the meeting, resolutions and a platform of principles will be adopted and Dr. Sawayanagi will deliver an inaugural speach. Students, including Mr. Kanji Koshio, Mr. Tsuguru Takimoto and Miss Chiyoko Hori, representing Waseda, Kyoto Imperial University and Nippon University, respectively, also will speak.

After the program by the students, Mr. Mitsuru Toyama, representing tne Patriotic Prohibition Society, Dr. Toyokichi Kita, of the Department of Education, and Mr. Sakao Moriya, of the Department of Home Affairs, will address the students. Mr. Mark Shaw, representing the American Students' Prohibition League, will speak as will Miss Azuma Moriya who is to represent the Women's Christian Temperance Union in Japan.

" National realization that prohibition is needed is behind the

消息

◇矢島楫子先生「あだ名ですよ、無歴矢人といふのは、面白いでせう？ 沼津の古道具屋にあつた額に書いてあつたんですよ」と、かう言つて笑はれる。口は自由にきけないけれども、理に從るゝ事みを額にたゝへて笑ひ、人に快いおもてをむけるといふのが先生のお氣持ちらしい。

◇守屋東氏、臺灣全道に大歡迎をうけて十一月八日歸京、その行一ケ月、東京驛からトラックで荷物を運搬す。口惡るの一人が評して會長のお歸りと言ふ。

十一月廿六日土浦禁酒會發會式に講演のため出席。

◇久布白落實氏、日本基督教聯盟の全國教化運動に參加、十一月十日、九州に向ひ廿五日歸京。八幡（筑前）で壇上に現るゝや否や暴漢十數名躍りあがり亂暴せりとはM新聞社の某氏が深切に電話を下さつた飛報だつた。然し、御本人は何の事もなかつたやうに却つて元氣で歸京。

◇持地ゑい子夫人十一月廿二日、約一年の豫定で獨逸に向はる。農村問題と小兒教育の研究のためと承る。

◇海老名みや子夫人、十一月廿六日上京、矢島先生を訪れらる。

◇新渡戸稻造博士、十二月八日ジエネバより歸朝、二月再び歸任さるゝ由。

◇山川大吉郞氏、十二月六日宇都宮支部講演會に出席。

◇川崎正子氏、小泉種子氏、十二月中旬上州藤岡に開催のバザーのため出張、極力奔走盡力さる。

◇城のぶ子氏、十二月五日濱松支部創立一週年記念講演會に出席さる。

◇松宮しん子氏・十一月十九日濱松に赴かる。（別項參照）

編輯室から

◇まだ七ケ月位しか過ごさないやうな氣持ちだのに、もう年末だといふわけです。不景氣風が帝都の空を吹きまくつてゐます。貸家札の多いこと、世事に無頓着な者にも目につきます、この不景氣風の風下に我々も立つてゐるのですが、然し、幸ひ諸氏の御後援と同情によつて、岩の上の城の如き心持ちを以つて立つことの出來ることは喜ばしいことです。

新年號から、我々更に粉をあらたにして讀者會員に見えたいと存じます。今後とも諸氏の御勵ましを願ひます。

新報は皆樣の雜誌です。どうかそのおつもりで。

◇カントレット氏の座右銘は今後每月頂けることになりました。此上なくも忙しい中から、丹念にお集め下すつた金言です。どうか每日味つて頂きたい。

◇松宮氏は營養研究の權威です。追つて實際の料理に就ても書いて頂く筈になつて居ります。

◇本號の婦人參政權問題に關する諸氏の御意見は隨分興味あるものとして御讀み頂くことを信じます。

社告

婦人新報定價

本號に限り一部四十錢

一部二十錢郵稅五厘

半年分一圓二十錢郵稅共

一年分二圓四十錢

（但し海外は郵稅別）

◇廣告御希望の方へは詳細お知らせ致します。

◇送金は凡て振替が便利でございます。

◇誌代は前金、切手代用は一割增。

振替口座東京三二四六九

電話青山五五二五番

編輯及事務所婦人矯風會本部

大正十三年十二月廿五日印刷
大正十四年一月一日發行

發行兼印刷人 矢島楫

編輯人 久布白落實

發行所 婦人新報社
東京市赤坂區新町三丁目四六番地

印刷所 株式會社 博文館印刷所
東京市小石川區久堅町百八